

令和 7 年度

事業報告書

Annual report



学校法人 高田学苑

Takada Gakuen

Contents

法人の概要

・・・ 2～10

建学の精神 / 教育方針 / 設置する学校、定員及び現員 /
役員・評議員 / 教職員数 / 組織構成図 / 校舎敷地及び建物等の概要 /
学生・生徒 志願者数推移 / 学生・生徒在籍者数推移 / 学生・生徒 進路状況

事業実績の概要

・・・ 11～17

理事会・評議員会・監事会・内部監査委員会の開催状況 /
監査法人監査報告 / 危機管理への取り組み / 夏季教職員研修会 /
教職員の健康管理体制 / 教職員の表彰 / 教職員の異動状況 /
給付型奨学金・授業料等減免（助成） / 短期大学入学金免除制度
高田学苑クラブチーム事業報告

教育活動の実績及び進捗状況

－高田短期大学－

・・・ 18～39

時代・社会の変化に即応した取り組み
1. 学士力向上を目指した改善活動
2. 主体性・協調性を育む短大生活支援
3. キャリア教育・キャリア支援の充実
4. 学生募集と高大交流事業
5. 外国人留学生支援について

地域への社会貢献事業

みえアカデミックセミナー2025／高田短期大学公開講座／高田短期大学付属図書館公開講座
地域連携施設

仏教教育研究センター／育児文化研究センター／キャリア研究センター／介護福祉研究センター
その他
施設設備の整備事業の実績

－高田中学校・高等学校－

・・・ 40～59

1. 建学の精神に基づいた教育推進事業
2. 生徒募集推進事業
3. 探究活動推進事業
4. SSH推進事業
5. ユネスコスクール推進事業
6. キャリア教育推進事業
7. 生徒会活動・部活動の推進
8. 国際理解教育推進事業
9. 危機管理・安全教育への取り組み事業
10. 教職員資質向上への取り組み事業
11. 学校自己評価、自己点検推進、学校関係者評価委員会事業
12. 施設設備の整備事業実績

財務の概要

・・・ 60～72

資金収支計算書の概要（全体・短期大学・中高等学校）
活動区分資金収支計算書の概要
事業活動収支計算書の概要（全体・短期大学・中高等学校）
令和7年度補助金一覧表
貸借対照表の概要
財産目録

法人の概要

建学の精神

本学苑は仏教精神を基として宗教的情操を培い、人間性豊かな社会人を育成することを建学の精神としている。



教育方針

短期大学

本学では「教育基本法」ならびに「学校教育法」にのっとり、本学の建学の精神・教育の理念に基づいて、少子化・子育て困難、超高齢化、そしてIT化が進行する現代社会からの要請にこたえ、高度な専門知識や技術・技能を身につけて「やわらか心」で地域社会に貢献できる保育者、介護福祉士、オフィスワーカーを育成することを教育目標としている。



中・高等学校

真宗高田派の宗門立学校として、言行忠信・表裏相応を校訓とし、仏教教育による人間味の豊かさを深め、規律精神を基とした行動力の育成と基礎学力の充実錬磨につとめ、広い視野から社会に貢献できる人材の養成をめざした教育を行っている。また、中学校・高等学校一貫六年制コースを設置し、高い水準の学力と知的な生徒を育成している。



設置する学校、定員及び現員

- ◆ 高田短期大学 三重県津市一身田豊野 195
- ◆ 高田高等学校 三重県津市一身田町 2843
- ◆ 高田中学校 三重県津市一身田町 2843

(令和7年5月1日現在)

高田短期大学

学科名	入学定員	収容定員	1年生	2年生	合計
子ども学科	150名	300名	133名	138名	271名
キャリア育成学科	100名	200名	96名	105名	201名
〔 オフィスワークコース	〔 60名	〔 120名	〔 63名	〔 68名	〔 131名
〔 介護福祉コース	〔 40名	〔 80名	〔 33名	〔 37名	〔 70名
合 計	250名	500名	229名	243名	472名

高田中・高等学校

	募集定員	収容定員	1年生	2年生	3年生	合計
高田高等学校	560名	1,685名	536名	568名	601名	1,705名

(学則定数 730 名) (3 ヶ年計 2,190 名)

	募集定員	収容定員	1年生	2年生	3年生	合計
高田中学校	190名	570名	187名	195名	204名	586名

(学則定数 240 名) (3 ヶ年計 720 名)

役員・評議員

(令和8年1月28日現在)

理 事			定数 9 名	実数 9 名
区 分	氏 名	現職等		
第 1 号	学苑長 短期大学長 中・高校長 本部事務局長	梅林 久高 清水谷 正尊 福山 茂 加藤 光博	学校法人高田学苑 学苑長 高田短期大学 学長 高田中・高等学校 校長 学校法人高田学苑 学苑本部事務局長	
第 2 号	評議員会に おいて選任 された者	増田 修一 安井 広伸 松田 英明 稲田 直子 山田 瞳	真宗高田派本山専修寺 宗務総長 公認会計士安井広伸事務所 所長 (株)松田商会 代表取締役社長 高田短期大学育児文化研究センター 学外研究員 楠井法律事務所 弁護士	

(令和7年6月10日現在)

監 事			定数 2 名	実数 2 名
区 分	氏 名	現職等		
監 事	下津 和文 山中 利之	下津醤油(株) 代表取締役会長 山中利之公認会計士事務所 公認会計士・税理士		

(令和7年5月30日現在)

評議員			定数 12 名	実数 12 名
区 分	氏 名	現職等		
第 1 号 法人職員 4 名	野呂 健一 箕田 昭子 北川 裕之 谷 朋宏	高田短期大学 キャリア育成学科長 高田中・高等学校 教頭 高田短期大学 事務局長 高田中・高等学校 事務部長兼会計課長		
第 2 号 卒業生 4 名 (年齢 25 歳以上)	倉田 栄治 伊藤 博康 小川 友香 岩崎 和彦	(株)津ドライビングスクール 代表取締役 (有)平治煎餅本店 代表取締役 小川・井熊会計事務所 公認会計士 医療法人思源会 理事		
第 3 号 学識経験者 4 名	小柴 弥生 弓削 弘嗣 土肥 美賀 鷲尾 敦	小柴産業(株) 真宗高田派本山専修寺 総務 三重大学医学部附属病院臨床研修キャリア支援部 高田短期大学 名誉教授		

(令和7年6月10日現在)

会計監査人			定数 1 名	実数 1 名
区 分	氏 名			
会計監査人 評議員会において選任 された者	五十鈴監査法人	(三重県津市丸之内 34 番 5 号津中央ビル 6F)		

教職員数

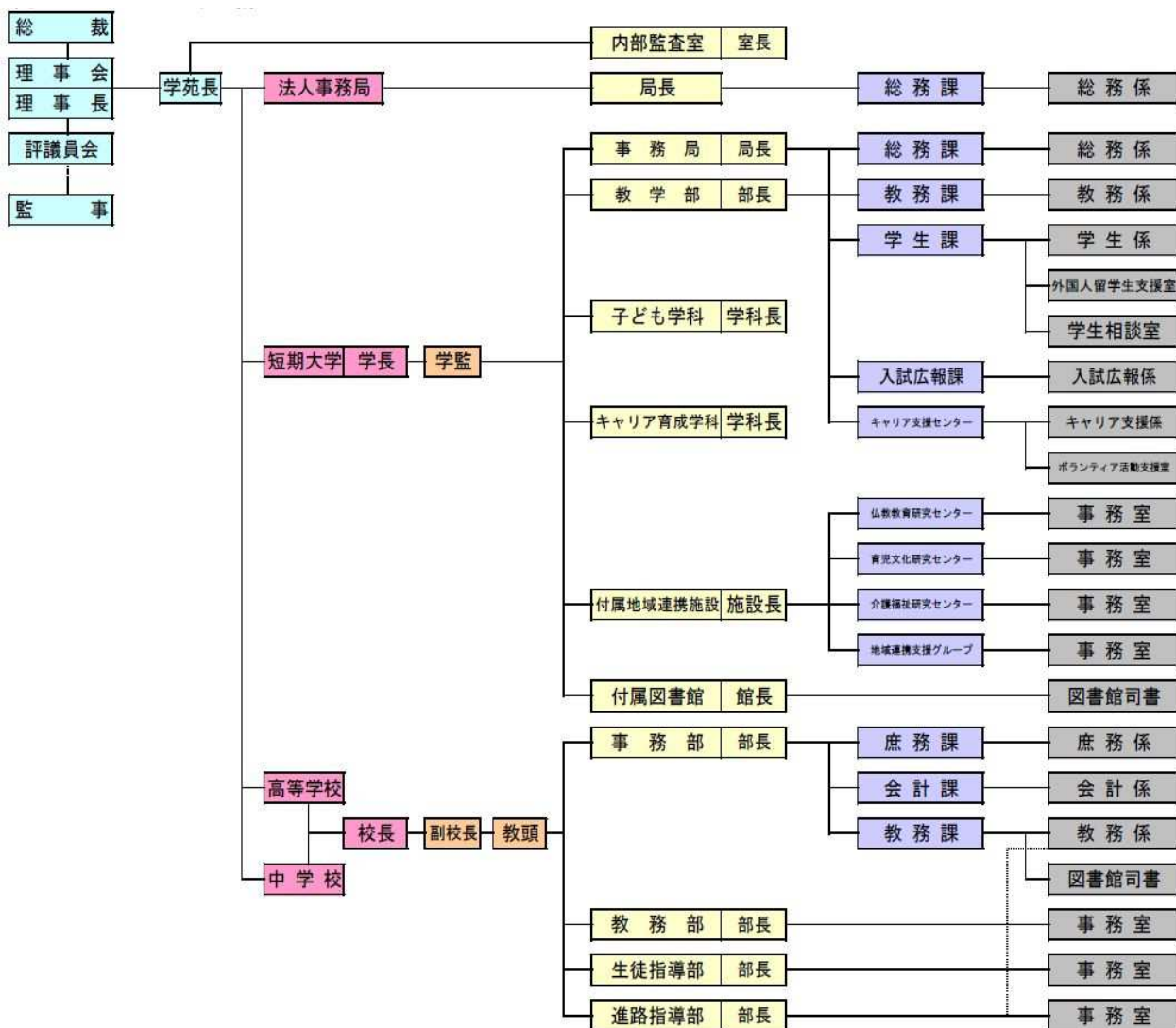
(令和7年5月1日現在)

		教 員		職 員		合 計
		本務教員	兼務教員 嘱託・非常勤等	本務職員	兼務職員 嘱託・非常勤等	
本 部		—	—	5 名	4 名	9 名
短期大学	子ども学科	16 名	26 名	15 名	8 名	65 名
	キャリア育成学科	10 名	39 名	7 名	5 名	61 名
	〔 オフィスワークコース	〔 6 名	〔 19 名	〔 6 名	〔 2 名	〔 33 名
	介護福祉コース	4 名	20 名	1 名	3 名	28 名
高等学校		101 名	33 名	8 名	23 名	165 名
中学校		29 名	15 名	3 名	3 名	50 名
合 計		156 名	113 名	38 名	43 名	350 名

(注) 学苑長は学苑本部の本務職員に、短大学長は子ども学科の本務教員に含む。

また、短大の兼務教員数には非常勤講師の後期採用者も含む。

組織構成図



校舎敷地及び建物等の概要

	区分	専用面積㎡	計面積㎡	所在地	権利の所属	備考
短期大学用地	校舎敷地	7,399	7,399	津市一身田豊野	自己所有	
	運動場用地	5,921	5,921	〃	〃	
	学生用駐車場用地	2,392	2,392	〃	〃	
	その他	3,279	3,279	〃	〃	緑地等
	計	18,991	18,991			
上記以外の学校用地	中学校校舎敷地	1,274	1,274	津市一身田町他	自己所有	内 借用588㎡
	高等学校校舎敷地	15,180	15,180	〃	〃	内 借用578㎡
	中学校運動場用地	14,481	14,481	〃	〃	
	高等学校運動場用地	49,169	49,169	〃	〃	内 借用3,275㎡
	その他	9,875	9,875	〃	〃	内 借用1,663㎡
	計	89,979	89,979			
合 計		108,970	108,970			
校地以外の土地		61,913	61,913	津市芸濃町河内	自己所有	山 林

短期大学の部

区分	面積㎡	室数	構 造	権利の所属
1号館	3155.60	33	鉄筋コンクリート造陸屋根5階建	自己所有
2号館	4163.75	38	鉄筋コンクリート造陸屋根4階建	〃
3号館	1743.64	15	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
音楽棟	858.82	23	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
図書館	803.19	8	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
体育館	1983.96	15	鉄筋コンクリート造アルミニウム板葺3階建	〃
部室	31.68	2	鉄骨造2階建	〃
その他	16.98			〃
計	12757.62	134		

法人本部、高等学校・中学校の部

区分	面積㎡	室数	構 造	権利の所属
本館	4721.83	36	鉄筋コンクリート造陸屋根7階建	自己所有
1号館	2722.10	25	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
2号館	2155.05	21	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
3号館	2609.31	13	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
4号館	3125.59	16	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
5号館	4113.15	29	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
管理棟1	207.23	5	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
管理棟2	98.88	4	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
厩舎棟	396.00	8	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
第1体育館	3819.78	16	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
第2体育館	1889.03	12	鉄筋コンクリート造切妻屋根3階建	〃
第3体育館	2081.54	6	鉄筋コンクリート・鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき2階建	〃
クラブハウス1	422.10	29	鉄筋コンクリート造2階建	〃
クラブハウス2	162.00	11	鉄筋コンクリート造陸屋根2階建	〃
施設管理棟	122.40	4	鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき平屋建	〃
その他	152.38			〃
計	28798.37	235		
合 計	41555.99	369		

備考（その他／機械室6.62㎡ 倉庫東、西47.95㎡ 渡り廊下67.50㎡ テニスコート部室30.31㎡）

学生・生徒 志願者数推移

(令和 7 年 5 月 1 日現在)

短期大学		R3	R4	R5	R6	R7
子ども学科		254	178	147	145	133
キャリア育成学科		107	103	121	142	102
	オフィスワークコース	81	64	65	70	66
	介護福祉コース	26	39	56	72	36
計		361	281	268	287	235
高等学校		R3	R4	R5	R6	R7
		2,787	2,885	2,894	2,770	2,538
中学校		R3	R4	R5	R6	R7
		554	569	546	593	562

学生・生徒 在籍者数推移

短期大学

(令和 7 年 5 月 1 日現在)

区分	項目	R3	R4	R5	R6	R7	
子ども学科	在学生数	321	350	297	281	271	
	収容定数	300	300	300	300	300	
	充足率	107%	117%	99%	94%	90%	
キャリア育成学科	在学生数	188	184	183	202	201	
	収容定数	200	200	200	200	200	
	充足率	94%	92%	92%	101%	101%	
	オフィスワークコース	在学生数	139	130	120	129	
		収容定数	120	120	120	120	
		充足率	116%	108%	100%	108%	
	介護福祉コース	在学生数	49	54	63	73	
		収容定数	80	80	80	80	
		充足率	61%	68%	79%	91%	
	計	在学生数	509	534	480	483	
		収容定数	500	500	500	500	
		充足率	102%	107%	96%	97%	

中・高等学校

(令和7年5月1日現在)

区分	項目	R3	R4	R5	R6	R7	
高等学校	在学生数	1,715	1,731	1,760	1,762	1,705	
	収容定数	1,680	1,690	1,695	1,695	1,685	
	充足率	102%	102%	104%	104%	101%	
中学校	在学生数	586	597	595	597	586	
	収容定数	570	570	570	570	570	
	充足率	103%	105%	104%	105%	103%	
計	在学生数	2,301	2,328	2,355	2,359	2,291	
	収容定数	2,250	2,260	2,265	2,265	2,255	
	充足率	102%	103%	104%	104%	102%	

学生・生徒 進路状況

短期大学

卒業者・進学者・就職者数

(令和8年5月1日現在)

	子ども学科	キャリア育成学科		合計	摘要
		オフィスワーク	介護福祉		
卒業者	136	68	36	240	
就職希望者	131	66	33	230	
就職決定者	131	65	33	229	
未内定者	0	1	0	1	
進学者	1	0	1	2	皇学館大学 名古屋芸術大学
その他	4	2	2	8	家事 アルバイト等

※前期末卒業生1名除く

過去３ヶ年の公務員試験合格者

●子ども学科

市町名	職種	現役学生			卒業生			計		
		R5	R6	R7	R5	R6	R7	R5	R6	R7
津市	保育士	7	3	1 2	3	4	2	1 0	7	1 4
	幼稚園教諭	0	0	2	0	0	0	0	0	2
四日市市	保育士・幼稚園教諭	1	5	2	1	0	0	2	5	2
伊勢市	保育士	3	3	2	0	0	0	3	3	2
松阪市	保育士・幼稚園教諭	2	4	4	0	0	0	2	4	4
鈴鹿市	保育士・幼稚園教諭	2	0	0	0	5	0	2	5	0
桑名市	保育士・幼稚園教諭	0	1	1	0	0	0	0	1	1
亀山市	保育士・幼稚園教諭	1	0	2	1	1	0	2	1	2
鳥羽市	保育士	0	2	1	0	0	0	0	2	1
志摩市	保育士・幼稚園教諭	0	1	1	0	0	0	0	1	1
熊野市	保育士（事務職）	1	0	0	0	0	0	1	0	0
伊賀市	保育士	0	1	3	1	0	0	1	1	3
名張市	保育士・幼稚園教諭	0	0	0	0	0	0	0	0	0
朝日町	保育士	0	1	0	0	0	0	0	1	0
川越町	保育士・幼稚園教務	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東員町	保育士・幼稚園教務	1	0	0	0	1	0	1	1	0
菰野町	保育士・幼稚園教務	1	0	4	0	1	0	1	1	4
多気町	保育士	0	0	0	0	0	0	0	0	0
明和町	保育士・幼稚園教務	0	2	0	0	0	0	0	2	0
大台町	保育士	0	1	0	0	0	0	0	1	0
玉城町	保育士	1	1	6	0	0	0	1	1	6
度会町	保育士	1	0	0	0	0	0	1	0	0
大紀町	保育士	2	0	0	0	0	0	2	0	0
御浜町	保育士	0	0	0	0	0	0	0	0	0
紀宝町	事務職（保育士）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	事務職（一般）	1	0	0	0	0	0	0	0	0
三重県	保育士	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	警察事務	0	0	0	0	1	0	0	1	0
その他県外	保育士・幼稚園教諭	0	0	1	1	0	0	1	0	1
計		2 4	2 5	4 1	7	1 3	2	3 1	3 8	4 3

●キャリア育成学科 オフィスワークコース

採用試験名	職種	現役学生			卒業生			計		
		R5	R6	R7	R5	R6	R7	R5	R6	R7
県・市町（県外含む）	行政	1	2	3	1	0	0	2	2	3
県	警察事務	1	1	1	1	0	0	2	1	1
県	警察官	2	1	1	0	0	2	2	1	3

●キャリア育成学科 介護福祉コース

採用試験名	職種	現役学生			卒業生			計		
		R5	R6	R7	R5	R6	R7	R5	R6	R7
県・市町	介護職	0	1	0	0	0	0	0	1	0

主な就職先・配属先

(令和8年5月1日現在)

子ども学科		高田幼稚園、高田保育園、豊津児童福祉会、清泉福祉会、聖マッテヤ子供の家、久居保育園、めいりんこども園、つくし福祉会、七和保育園、わかすぎ保育園、のべの幼稚園、長太ノ浦保育園、神戸保育園、志登茂保育園、洗心福祉会、みどり自由学園、山室山保育園、ながさわ保育園、エンゼル幼稚園、市町立幼稚園・保育園・認定こども園 他
キャリア育成学科	オフィスワーク	三十三銀行、桑名三重信用金庫、美和ロック、住友電装、三重交通、ヨシザワ、サイネックス、日本陸送、三重商工会連合会、松阪ケーブルテレビステーション、メナード青山リゾート、ICDA ホールディング、三重トヨペット、三重いすゞ自動車、三重県職員、三重県警察 他
	介護福祉	あけあい会、明和病院グループ、聖マッテヤ会、安全の里、長寿会、かなしょうず園、慈童会、ケアフル亀山、佐藤病院、むつみ福祉会 他

高等学校

卒業者

(令和8年4月5日現在)

		男	女	計
三年制	I 類	7 8	1 2 1	1 9 9
	II 類	1 0 2	1 1 0	2 1 2
六年制		9 8	9 1	1 8 9
計		2 7 8	3 2 2	6 0 0

進学合格者のべ数・就職者数

		三年制				小計	六年制		小計	合計
		Ⅰ 類		Ⅱ 類			現	卒		
		現	卒	現	卒					
四年制 大学	国 立	4	0	3 0	1	3 5	5 8	2 3	8 1	1 1 6
	公 立	0	0	1 8	2	2 0	1 4	7	2 1	4 1
	私 立	1 5 3	0	3 1 3	2 2	4 8 8	3 1 3	1 4 0	4 5 3	9 4 1
文部科学省所管外		0	0	0	0	0	4	1	5	5
海 外		2	0	0	0	2	1	0	1	3
短大	公 立	9	0	6	0	1 5	0	0	0	1 5
	私 立	2 1	0	2	0	2 3	0	0	0	2 3
専修学校		3 4	0	1 1	0	4 5	0	0	0	4 5
就 職		5	0	2	0	7	0	0	0	7
合 計		2 2 8	0	3 8 2	2 5	6 3 5	3 9 0	1 7 1	5 6 1	1 1 9 6

国公立大学 157名		(医学科 29)	
東京大学 6 (理科三類 1)	富山大学 3 (医学科 1)	福井大学 1 (医学科 1)	名古屋大学 8 (医学科 1)
名古屋市立大学 8 (医学科 1)	三重大学 38 (医学科 15)	京都府立医科大学 2 (医学科 2)	大阪大学 5 (医学科 2)
大阪公立大学 6 (医学科 1)	山口大学 2 (医学科 1)	香川大学 2 (医学科 2)	長崎大学 2 (医学科 1)
北海道大学 1	筑波大学 2	一橋大学 1	静岡大学 1
京都大学 5	神戸大学 5	広島大学 1	九州大学 2
文部科学省所管外 5名		(医学科 1)	
防衛医科大学校 1 (医学科 1)	防衛大学校 4		
私立大学 941名		(医学科 77)	
岩手医科大学 3 (医学科 3)	東北医科薬科大学 2 (医学科 2)	自治医科大学 1 (医学科 1)	獨協医科大学 2 (医学科 2)
国際医療福祉大学 1 (医学科 1)	順天堂大学 6 (医学科 4)	昭和医科大学 2 (医学科 1)	帝京大学 3 (医学科 2)
東海大学 5 (医学科 3)	東京医科大学 1 (医学科 1)	東邦大学 1 (医学科 1)	日本大学 5 (医学科 2)
日本医科大学 3 (医学科 3)	金沢医科大学 2 (医学科 2)	愛知医科大学 18 (医学科 18)	藤田医科大学 10 (医学科 9)
大阪医科薬科大学 8 (医学科 6)	関西医科大学 7 (医学科 7)	近畿大学 44 (医学科 4)	兵庫医科大学 4 (医学科 4)
川崎医科大学 1 (医学科 1)	慶應義塾大学 5	早稲田大学 30	上智大学 8
中央大学 9	東京理科大学 17	青山学院大学 5	立教大学 7
明治大学 11	学習院大学 1	法政大学 5	津田塾大学 2
工学院大学 3	横浜薬科大学 1	同志社大学 43	関西学院大学 40
立命館大学 59	関西大学 14	龍谷大学 24	京都産業大学 23
京都薬科大学 2	京都女子大学 3	長浜バイオ大学 1	南山大学 19
名城大学 39	中京大学 34	愛知大学 8	愛知淑徳大学 12
愛知工業大学 17	名古屋外国語大学 12	皇學館大学 54	鈴鹿医療科学大学 77
短期大学 38名			
高田短期大学 21	三重短期大学 15	ユマニテク短期大学 1	名古屋文化短期大学 1
専修学校 45名			
三重中央看護学校 4	三重看護専門学校 6	津看護専門学校 3	ユマニテク医療福祉大学校 2

事業実績の概要

理事会・評議員会・監事会・内部監査委員会の開催状況

令和7年度は高田学苑寄附行為に基づき、計8回の理事会、計9回の評議員会を開催しました。また、高田学苑では私立学校に義務付けられている監査法人及び監事の監査に加え、内部監査委員による監査を行い、学校法人におけるガバナンスが適切に機能しているか、外部及び内部から監督・指導を受けています。令和7年度に行われた各会の開催日と議題は以下になります。

理事会	第1回	令和7年 5月30日（金）	- 令和6年度決算（案）の承認について - 学校法人高田学苑寄附行為施行細則（案）の制定について - 学校法人高田学苑理事会運営規則（案）の制定について - 学校法人高田学苑理事選任機関運営規程（案）の制定について - 学校法人高田学苑監事監査規程（案）の制定について - 学校法人高田学苑評議員会運営規則（案）の制定について - 学校法人高田学苑評議員選任・解任及び運営規則（案）の制定について - 内部統制システム整備の基本方針（案）の策定について - 学校法人高田学苑リスク管理規程（案）の制定について - 学校法人高田学苑コンプライアンス規程（案）の制定について - 高田中学校・高等学校校長選任規定（案）の制定について
	第2回	令和7年 5月30日（金）	- 令和6年度決算（案）の承認について - 令和7年度定時評議員会の招集の件について
	第3回	令和7年 6月10日（火）	- 学校法人高田学苑理事長の選任について - 学校法人高田学苑勤務規則の一部改正（案）について - 特殊勤務職員勤務規則の一部改正（案）について - 会計監査人の監査報酬等について
	第4回	令和7年 9月 2日（火）	- 高田中・高等学校 3号館・4号館・5号館・第二体育館GHPの更新工事について - 高田短期大学の経営改革について
	第5回	令和7年10月24日（金）	令和7年度臨時評議員会の招集の件について
	第6回	令和7年11月 4日（火）	- 令和7年度第1回収支補正予算（案）について - 学校法人高田学苑組織規程の一部改正（案）について - 学校法人高田学苑給与規程の一部改正（案）について - 学校法人高田学苑育児休業・介護休業等に関する規程の一部改正（案）について - 高田高等学校学則の一部改正（案）について
	第7回	令和8年 3月16日（月）	- 令和7年度臨時評議員会の招集の件について - 学校法人高田学苑 高田中・高等学校 3号館・4号館・5号館・第二体育館空調機（GHP）の更新工事に係る入札及び請負契約締結について
	第8回	令和8年 3月24日（火）	- 学校法人高田学苑学苑長の選任（案）について - 学校法人高田学苑理事の選任（案）について - 令和7年度第2回収支補正予算（案）について - 令和8年度収支当初予算（案）について - 学校法人高田学苑組織規程の一部改正（案）について - 学校法人高田学苑給与規程の一部改正（案）について - 高田短期大学学則の一部改正（案）について - 高田高等学校学則の一部改正（案）について
評議員会	理事選考会	令和7年 5月30日（金）	学校法人高田学苑理事の選任について
	評議員選考会	令和7年 5月30日（金）	学校法人高田学苑評議員の選任について
	決 算	令和7年 5月30日（金）	- 学校法人高田学苑監事の選任について - 学校法人高田学苑会計監査人の選任について - 令和6年度決算（案）の承認について
	定 時	令和7年 6月10日（火）	令和7年度年間事業計画について
	臨 時	令和7年11月 4日（火）	令和7年度第1回収支補正予算（案）について
	理事選考会	令和8年 1月28日（水）	学校法人高田学苑理事の選任について
	臨 時	令和8年 3月24日（火）	- 令和7年度第2回収支補正予算（案）について - 令和8年度収支当初予算（案）について
	理事選考会	令和8年 3月24日（火）	学校法人高田学苑理事の選任について
監事会	決算期	令和7年 5月27日（火）	- 令和6年度短期大学及び中高等学校概要報告 - 令和6年度事業実績報告 - 令和6年度決算審査関係 - 内部監査報告及び質疑応答
	上半期	令和7年10月24日（金）	- 令和7年度短期大学及び中高等学校概要報告 - 令和7年度第1回補正予算書及び現預金状況 - 令和7年度事業実績報告（中間） - 質疑応答及び実査
内部監査委員会	第1回	令和7年 5月23日（金）	- 令和6年度短期大学及び中高等学校教学監査 - 令和6年度事業実績報告 - 決算概要報告（現金、預金及び有価証券の状況） - 質疑応答
	第2回	令和7年10月22日（水）	- 令和7年度短期大学及び中高等学校概要報告 - 令和7年度事業実績報告（中間） - 現金、預金及び有価証券の状況（質疑応答） - 学苑管理運営等について

監査法人監査報告

監査法人監査 監査法人名：五十鈴監査法人	
4月 4日（金）現金、通帳、証書の実査	9月 8日（月）令和7年8月までの取引記録
5月20日（火）令和6年度決算監査①	10月24日（金）令和7年9月までの取引記録
5月21日（水）令和6年度決算監査②	12月 8日（月）令和7年11月までの取引記録
6月 3日（火）令和6年度決算監査③	1月19日（月）令和7年12月までの短大取引記録
	3月11日（水）令和8年2月までの取引記録

危機管理への取り組み

非常食等の備蓄

今後30年以内に南海トラフ地震の発生確率が「80%程度」に引き上げられるなど、巨大地震への切迫性が高まる中、学生・生徒及び教職員の生命を守るためにハード・ソフトの両面から事前防災を強化していくことが不可欠となっています。また、酷暑や大雨、台風などの自然災害が全国的に増加しており、日頃から備蓄や設備整備に対して学苑全体で取り組みを進めています。



その取り組みの1つである「白い小箱運動」は単なる非常食等の備蓄ではなく、小箱の詰め込みや搬入などの作業を通じて障がい者の方々の就労支援となっていることや非常食推進機構と締結した「災害用物資を活用した防災活動に関する協定」に基づき、学生・生徒が卒業時に自身で購入した白い小箱を寄付することで地域や食料物資を必要とする海外へ援助を行う「白い小箱運動」に参加するといった社会貢献活動として意義のあるものとなっています。

本年度の寄附については、社会福祉法人三重県厚生事業団へ138個、津市こども支援課へ169個、松阪市こども未来課へ350個、三重県子ども福祉部へ210個、鈴鹿市へ70箱の合計937個の寄附を行い、各団体・行政より障害者施設での支援や備蓄教育、児童養護施設及び生活困窮者、福祉施設への支援品として活用されます。

夏期教職員研修会

教職員研修会が8月18日（月）高田中・高等学校本館5F講堂において、教職員約200人を対象に開催しました。

第1部 講演 「教育現場におけるハラスメント研修」

楠井法律事務所 弁護士 山田 瞳氏

前年度もハラスメントをテーマに企業や事業所内でのハラスメント事例を挙げて研修を行ったことが記憶に新しいですが、令和7年度は、本学理事でもあり弁護士の山田瞳先生を講師に迎え、教育現場のハラスメントにスポットを当て、法律の見地から教育現場でのハラスメントとは何かを考える研修を行っていただきました。講演のなかで山田氏から生徒・学生へのハラスメント（パワ



ハラ・アカハラ等）とは何かについて法律をもとに説明が行われ、実際の教育現場で起こりうるハラスメントについて考える機会となりました。また、ハラスメントをした教職員や雇用主（学苑）にかかる責任について明示され教職員全員で理解を深めました。また、ハラスメントをなくす方法や保護者対応等についても具体的事例をあげて詳しくお話をいただきました。自身の言動を振り返り、学生・生徒への指導方法や接し方、コミュニケーションについて学び、改めて教職員ひとりひとりが姿勢を正す機会となりました。

第2部 講演 「 笑う門には福来る ～いじめられっ子の僕が落語家になったワケ～」

落 語 家 林 家 染 太 氏

第2部は、落語家の林家染太氏を講師に迎え、教職員に加え、生徒保護者の方もお招きして講演を行いました。温和で人懐っこい笑顔の林家氏ですが、中学時代に壮絶ないじめの被害者に。中学時代は最悪で、支えてくれたのはシベリア抑留経験もあるおじいちゃんでした。おじいちゃんから「お前がそこにいるのはいろんな人の命のリレーがあるからや。絶対に死んだらあかん。」と言われ自死を踏み止まり、それから両親や先生といった信用できる大人に頼ったというエピソードをお話いただきました。そして「どうしてもしんどかったら、学校休んでいいんです。逃げてください」、「人の悪口、陰口止めていきませんか」など温かくも熱いメッセージを届けていただきました。また、落語家になれたのは自身の名前が「志行」、師匠の名前が「行志」という縁で弟子入りできたエピソードについて触れ、世の中不思議な縁があるのでそれを大切にしてくださいとお話してくださいました。最後は、落語のほか南京玉すだれを披露していただき、教職員・保護者ともにリラックスして笑いのある素敵な時間となりました。



教職員の健康管理体制

健康診断・任意検診

本学は平成23年度より夏期休暇期間を利用し、学校保健安全法、結核予防法、労働安全衛生法などで定められた検査項目を遵守した健康診断を実施しています。令和7年度は8月1日（金）、4日（月）、5日（火）、6日（水）の4日間での検診を実施し、教職員225名が受診しました。

任意検診の検査項目は前年に引き続き、ピロリ菌検査、甲状腺機能検査、脳や心筋梗塞リスクを判定するロックスインデックス検査を実施しました。

検査結果をもとに産業医である岩崎病院が教職員の健康を確保する必要があると認めた場合は、本学に対し教職員の健康管理等について必要な勧告がなされます。



ストレスチェック

労働安全衛生法が改正され、メンタルヘルス不調を未然に防ぐ目的から、ストレスチェックの実施が平成27年12月1日より事業所に義務付けがなされました。教職員は「仕事のストレス要因」、「心身のストレス反応」、「周囲のサポート」の3領域からなる調査票の質問項目に回答することで自身のストレス度合いを判定します。検査の結果、高ストレス者等に該当する労働者から申し出があった場合は産業医等による面接指導を実施することが義務となっています。この面接指導の結果に基づき、産業医等の意見を聞き、必要に応じて修行上の措置を講じるなど、より働きやすく健康的な職場へと改善することを目指します。

今年度は6月10日（火）より1ヶ月間、ストレスチェックをウェブ上で実施しました。高ストレス判定者数は例年並みですが、教育現場でのコンプライアンスやハラスメント問題の影響など職場として求められるものが一層多様化するなかで教職員を守る一助となるようストレスへの気づきを促すとともに職場環境の分析と改善に繋げていきます。

インフルエンザ予防接種

平成28年度から毎年実施しております学苑内での予防接種ですが、今年度も三重県健康管理事業センターに来校いただき、11月17日（月）、11月20日（木）の2日間にて実施しました。接種希望者数は116名おり、予防接種の費用についてはこれまで同様に学苑の一部負担となりました。

教職員の表彰

永年勤続表彰			
短期大学	11月25日（火）	計 3名	
20年 勤続	1名	15年 勤続	1名
10年 勤続	1名		
中・高等学校	11月10日（月）	計 25名	
40年 勤続	1名	30年 勤続	4名
25年 勤続	3名	20年 勤続	6名
15年 勤続	5名	10年 勤続	6名

教職員の異動状況

		採 用			退 職	
		新規採用	再雇用	任用替	再雇用	完全退職
短期大学	教授	1				
	准教授	1				1
	講師				1	1
	助教			1		2
	本務職員	1	1			2
	特任教授					1
	特任准教授					
	特任講師				1	
	嘱託職員	2				
	非常勤職員					
中・高等学校	教諭	3	3	4	4	2
	本務職員		1			1
	講師		1			1
	講師嘱託	3		1		
	A L T					
	嘱託職員	3			1	
	非常勤講師	5	2			7
	非常勤職員	1				

給付型奨学金・授業料等減免（助成）

高田学苑では、保護者や学生の経済的な負担を軽減する目的から、各種奨学金・授業料等減免制度を設けています。なお、これらの奨学金は給付型であり、すべて返済不要です。

高田短期大学介護福祉士就労予定者奨学金	
対 象	キャリア育成学科介護福祉コース学生
目 的	建学の精神に照らし、特に学業・人物に優れた学生で卒業後介護施設に就職する予定であるすべての学生（外国人留学生を除く）を支援する。
決定者	42名（1年生18名、2年生24名）
奨学金額	4,200,000円（1・2年生ともに年額10万円を給付）
高田短期大学奨学金私費外国人留学生授業料等減免措置	
対 象	高田短期大学に在学する私費外国人留学生
目 的	授業料・施設設備整備費・教育充実費等の経済的負担を減免する。
決定者	20名 減免率については学業成績（GPA）、日本語能力試験（JLPT）に基づき決定
奨学金額	4,821,000円

短期大学入学金免除制度

高田高等学校を卒業し高田短期大学に入学する場合、入学金（28万円）が免除される制度もあります。過去3カ年の高田高等学校からの進学者数は以下のとおりです。

	令和5年度入学	令和6年度入学	令和7年度入学
人 数	36名	40名	14名

高田学苑 クラブチーム事業報告

令和7年度 みえ高田FC

三重県の高等教育機関魅力向上補助事業の採択を受け、県内の中学・高校・短大生と社会人から構成される女子サッカークラブチームとして平成27年度に設立され、全国でも珍しい学校法人が運営する女子サッカークラブチームです。クラブチーム発足にあたり、元なでしこジャパンの宮本ともみ氏の指揮のもとで活動開始し、平成28年度から県内リーグ参戦、平成30年度には県内リーグ上位ランクインするなど順調に力を伸ばし、令和3年度には東海リーグ初戦を勝利し次年度に向け昇格に大きく前進するも新型コロナウイルス感染症の影響から大会中止となり昇格は見送りとなりました。そのような状況のなか、宮本氏のなでしこジャパン（日本女子代表）コーチへの就任が決定となったことに伴い、後任に三重県サッカー協会指導員や三重県国体選抜（女子）監督等の経歴をもつ小澤亮二氏に令和4年度から指揮を託すこととなりました。小澤氏指揮のもとでは、精力的に公式戦・練習試合に活動を行い、U-15にとどまらず、高校（U-18）、一般（成人）、男子（U-15世代）とも対戦することで競技力向上に取り組んだ結果、三重県U-15リーグ準優勝や三重県女子リーグ全勝優勝、東海リーグ参入戦出場といった成果を上げています。

その後、小澤氏の任期満了に伴い、令和7年度からは新たな指導者として林一章氏を監督、下條彩氏をコーチに迎えての活動となりました。林監督は現役時代Jリーガーとしてプロチームに所属し、社会人サッカーリーグにおいても活躍された経歴を持ち、現役後は地元三重県の伊賀FCくノ一三重や鈴鹿ポイントゲッターズの監督・コーチとして選手育成に尽力されています。下條コーチについては、学生時代から大学チームや数々のクラブチームでプレーした後、東京のクラブチーム等を経て、伊賀FCくノ一三重へ移籍し令和6年シーズンまで活躍され、後進の育成に携わっています。

令和7年度は23名が所属し活動を行ってきましたが、個人としては5名が国民スポーツ大会候補選手、4名が東海ナショナルトレーニングセンター候補選手、そして1名が日本代表候補選手に選ばれました。チームとしては、三重県大会を突破し、東海大会に出場したものの、そこでの勝利を収めることができず、現状を知る機会となりました。「自立」と「依存」の間で揺れる年代だからこそ、サッカーの持つ「個性」と「社会性」を追給することで、一人の人格者としても、サッカープレイヤーとしても成長をし、またサッカーの結果としても表現できるように努めて参ります。

< 令和7年度の主な戦績 >

JFA U-15女子サッカーリーグ2025三重

6月 8日（日）	楠クラブレディース戦	●	1—2
6月14日（土）	伊賀FCくノ一三重サテライト	○	3—1
8月25日（月）	ヴィアティン三重レディースユース	○	7—1
※ 三重県1位として東海参入戦への出場権獲得			

JFA第30回全日本女子ユースU-15サッカー選手権大会三重県予選

9月21日（日）	ヴィアティン三重レディースユース	○	9—1
10月 5日（日）	伊賀FCくノ一三重サテライト	○	1—0
※ 三重県優勝として東海大会三重県代表として出場権獲得			



J F A 第 3 0 回 全 日 本 女 子 ユース U-1 5 サ ッ カ ー 選 手 権 大 会 東 海 大 会

1 1 月 1 日 (土) 静 岡 S S U 浜 松 泉 F C ● 1 - 3

J F A U-1 5 女 子 サ ッ カ ー リ ー グ 2 0 2 6 東 海 参 入 戦

令 和 8 年 1 月 2 5 日 (日) ア ス ル ク ラ ロ 沼 津 ● 1 - 3



教育活動の実績及び進捗状況 ―高田短期大学―

時代・社会の変化に即応した取り組み

1 学士力向上を目指した改善活動

学士課程で身に付けるべき学修成果（学士力）への到達を目指して

学生が主体的・自律的に「ディプロマ・ポリシー」に定めた「到達目標（学修成果）」に到達できるよう、「履修マップ」「科目ナンバリング」の活用等により授業の質的向上を図るとともに、レポート機能等の授業支援機能に改善を加えた学修支援システム「Active Academy Advance」の更なる利活用を推進することで、学生自らが学修成果を点検・評価し、より能動的に学士力向上に取り組めるよう支援することができました。

2 主体性・協調性を育む短大生活支援

（１）新入生研修

日 時 4月30日（水）

会 場 （両学科） 日硝ハイウェアリーナ（旧サオリーナ）
（津市北河路町19番地1）

研修内容 新入生研修をととして、短大生としての自覚・自立心および協調性を養うとともに、学生・教職員相互の理解と親睦を深めることにより、今後の短大生活をより有意義に送れるようにすることを目的としています。本年度より会場を日硝ハイウェアリーナに変更し、両学科合同での実施となりました。午前中は両学科での親睦を図るためのレクリエーションを事務局及び学生自治会主導で実施しました。午後は各学科コースに分かれて、各学科コースの特色を活かしたレクリエーション等を教員主導で実施しました。



（２）学生自治会主催イベント

本学伝統の自治会活動では、2年生の執行部役員に加え、1年生から学生自治会サポートメンバーを募り、各学生が自らの役割を考えて行動し、課題を解決していく「異学年共同コミュニティ」の形成を目指しています。自治会活動を教職員が支え、年間を通して種々の行事を企画しています。

① TJC祭（スポーツ大会）

日 時 5月17日（土）

場 所 本学体育館

内 容 新入生歓迎および学生の親睦を深めることを目的に開催しました。スポーツを行うには最適な時期で約50名の学生が集まり、自治会役員や教職員とともに競技に参加しました。

② 学生自治会主催 抽選会

日 時 7月17日（木）

場 所 2号館1階カフェテリア

内 容 学内コンビニおよび笑旨XXと連携し、学内で買い物をした学生を対象に学生自治会が抽選会を行いました。



③ 第60回高短祭

日 時 10月24日（金）・25日（土）

場 所 本学

内 容 24日は午後から準備を行い、夕方より前夜祭として謎解きイベントやカラオケ大会を実施しました。25日は一般公開日として開催し、学生がゼミごとに企画した飲食関係の模擬店を中心に、ケータリング業者によるキッチンカーも出店し、多くの来場者から好評を得ました。

また、学生イベントとして軽音楽部・吹奏楽部による演奏やパフォーマンス大会を実施し、ゲストイベントとして大道芸およびシャボン玉のパフォーマンスを行い、来場者に楽しんでもいただきました。



（3）学長と学生自治会執行役員との懇談会

日 時 7月14日（月）14：50～

場 所 第4会議室

出席者 清水谷学長、執行委員10名、教職員12名

内 容 学生との意見交換や、学生からの要望等の聴き取りを行い、改善策について検討しました。

1）高短祭について

2）学業及び学生生活全般に関する意見交換

日 時 1月21日（水）16：20～

場 所 第4会議室

出席者 清水谷学長、執行委員17名、教職員13名

内 容 学生との意見交換や、学生からの要望等の聴き取りを行い、改善策について検討しました。

1）新旧自治会執行委員の自己紹介等

2）学業及び学生生活全般に関する意見交換

（4）謝恩会

日 時 3月19日（木）14：30～

場 所 ホテルグリーンパーク津 6階 伊勢・安濃の間

出席者 清水谷学長、卒業生206名、教職員42名、学生自治会12名

内 容 ビュッフェ形式の立食パーティーにて実施しました。大半の卒業生にご参加いただき、抽選会や教員からのメッセージ動画の上映なども行い、大いに盛り上がる謝恩会となりました。4月から社会へ旅立つ多くの卒業生にとって、良い思い出となったものと思われます。



3 キャリア教育・キャリア支援の充実

キャリア教育の推進

各学科・コースの特色に応じて就職に関わる科目を設定するとともに、プレ講座、フォローアップ講座ならびに就職講座と関連付けることにより、系統的なキャリア教育を推進しています。

2025年度 入学生 (1年生)	子ども学科	【授業】キャリアスタディ 8回実施 プレ講座 3回実施 フォローアップ講座 1回実施
	キャリア育成学科 オフィスワークコース	【授業】キャリアガイダンスⅡ 15回実施 プレ就職講座 2回実施
	介護福祉コース	プレ就職講座 1回実施 就職講座 3回実施
2024年度 入学生 (2年生)	子ども学科	フォローアップ講座 2回実施
	キャリア育成学科 オフィスワークコース	フォローアップ講座 2回実施 就職前講座 1回実施
	介護福祉コース	就職講座 4回実施

公務員試験対策

(1) 教養試験対策講座〔受講者数〕()内は内数で事務職希望者

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
1年生	145(7)人	85(9)人	72(3)人	88(6)人	74(13)人
2年生	52(1)人	77(2)人	56(6)人	49(3)人	59(2)人

2025年度入学生(現1年生)は、9月10日から3月6日まで21回実施

2024年度入学生(現2年生)は、4月7日から6月30日まで12回実施

(2) 保育専門対策講座

1年生 12月 3日～2月25日：計8回実施

2年生 令和7年3月24日・3月25日：計4回実施(令和6年度中)

(3) 数学対策講座

2年生(4月～11回実施)、1年生(9月～23回実施)

(4) 公務員二次・三次対策講座

集団討論対策、実技対策について市町別等 9回実施、

1年生向け 2回実施、他 随時個別指導

学生への就職支援

キャリア支援センターでは、キャリアカウンセラーの有資格者をはじめ、学生の多くが希望する分野の採用事情に精通した職員が、学生の進路相談や就職活動などについてきめ細やかな支援を行っています。

卒業生への支援と早期離職の防止対策

生涯キャリア支援を旗印に、離職したり、仕事上の悩みなどで相談に来たりする卒業生に対して、卒業後も継続して支援を行っています。早期離職防止対策については、令和8年2月16日（月）に実施した就職直前講座等で各学科コース別に指導しました。

「AAA（相談記録）」の活用等による協働型キャリア支援の推進

毎月1回（年13回）、キャリア支援委員会ならびに学科・コース毎の事前ミーティングを開催して、各学科・コースとキャリア支援センターの教職員が、一人ひとりの学生に対するキャリア支援のあり方について協議しています。また、日常的には学内Webシステム「AAA」の相談記録を活用して、教職員間の情報共有と意思疎通を図っています。

4 学生募集と高大交流事業

（1） 高大教育交流事業

今年度の交流事業の実施回数は以下のとおりです。

（協定校20校および高田高等学校での実績）。

なお、今年度新たに伊賀白鳳高等学校が高大教育交流協定校となりました。

・ 高大教育交流連絡協議会開催

（2回：6月リモート、2月対面）

・ 出前授業、本学での特別授業の実施（46回）

・ 学校見学（8回）

・ 高校内進学ガイダンスの実施（109回）

・ 保護者会への出席（1回）

・ 面接対策講話の実施（4校4回）

いなべ総合学園、四日市商業、久居、宇治山田商業

・ 個別、集団面接指導の実施（8校16回）

高田（3）、四日市商業（4）、白子（2）、亀山、相可（2）、明野（2）、三重、英心

・ 保育園見学バスツアー（5校6回）

・ 総合型選抜入試対策講座（8校8回）

高田、四日市商業、白子、亀山、相可、明野、三重、英心

・ 体験授業、分野別ガイダンス内訳（保育：44件、オフィス系：17件、介護：11件）



（2） オープンキャンパス実施結果

① 日時

第1回	4月26日（土）	13:00～15:30
第2回	6月7日（土）	13:00～16:00
第3回	7月6日（日）	13:00～16:00
第4回	8月2日（土）	13:00～16:00
第5回	8月24日（日）	13:00～16:00
第6回	12月21日（日）	13:00～15:00
第7回	3月8日（日）	13:00～16:00



② 参加者数

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	合計
子ども学科	34名	70名	71名	128名	105名	25名	47名	480名
キャリア育成学科 オフィスワークコース	17名	24名	25名	51名	27名	10名	18名	172名
キャリア育成学科 介護福祉コース	4名	3名	8名	8名	8名	3名	9名	43名
計	55名	97名	104名	187名	140名	38名	74名	695名

※ 他に留学生オープンキャンパスを以下のとおり実施

- 1) 7月21日(月) 14:00～16:00 参加者 25名
- 2) 8月4日(月) 14:00～16:00 参加者 12名

5 外国人留学生支援について

留学生のビザ更新に関する情報、奨学金など金銭面支援の状況、納税及び社会保険料などの支払いに関する情報、日本語能力検定試験など学習状況について、外国人留学生支援室内での情報の共有を図っています。

(1) 外国人留学生支援室による在留期間更新の取次申請手続き

9月末までに1年生11名の対応を行い、在留資格更新不許可者を出さずに無事に手続きが行えました。

(2) 施設奨学金の斡旋

1年生11名に対し各介護福祉施設奨学金及び三重県社会福祉協議会介護福祉士修学資金の説明を行い、施設担当者との面接の調整及び申込み書類の取りまとめ等により、全員奨学金の受給が決定しました。

(3) 授業内での日本語支援

介護福祉コースの授業に日本語補助員を配置し、介護や医療の専門用語等の説明が留学生に非常に好評です。更に、日本語能力等向上のための日本語補習講座を実施しています。

(日本語補助対象授業科目)

前期

1年生・・・「心と身体のしくみⅠ」「人間発達の理解Ⅰ」

2年生・・・「社会保障」

後期

1年生・・・「人間発達の理解Ⅱ」

地域への社会貢献事業

みえアカデミックセミナー2025

三重県内にある全ての大学・短期大学・高等専門学校が有する学びと県民をつなぐ三重県の高等教育機関の連携事業で、各校の特色を活かしたバラエティ豊かな公開セミナーが毎年開催されています。

本学は次の講座を開講し、85名の受講がありました。

日 時 8月7日(木) 13:30～15:00

会 場 三重県総合文化会館1階 レセプションルーム

テ ー マ 「認知症を学んで対策を！

～人生100年時代最後まで自分らしく～」

講 師 キャリア育成学科講師 上山 由紀子



高田短期大学公開講座

【講座1】「日本画材料体験～胡粉（ごふん）団子を作る」

開 催 日 8月23日(土)

場 所 造形演習室

参 加 者 6名

受 講 料 無料

講 師 子ども学科准教授 亀澤 朋恵

内 容 カキなどの貝殻を原料とし、日本画の白絵具として使用される胡粉を、団子状にして、色紙に貼り付け、立体感のある作品を作りました。受講者の皆様には、お好みの題材に色付けをして、思い思いの表現を楽しんでいただきました。



【講座2】「金融経済教育とウェルビーイングとの関係」

開 催 日 11月8日(土)

場 所 図書館1階 グループワークエリア

参 加 者 5名

受 講 料 無料

講 師 キャリア育成学科助教 江淵 剛

内 容 ウェルビーイング（幸せである状態）と資産形成の関係について考えました。人生100年時代に不安なく暮らすための金融リテラシー（運用能力）を養う契機として、各国との比較や金融商品に対する基礎知識を解説しました。受講者の皆様も積極的に発言して関心を深めていただきました。



【講座3】「Excel 応用講座『Excel のグラフづくり』 — 家計分析を例として —」

実 施 日 12月20日(土)

講 師 本学名誉教授 鷺尾 敦

当講座は、講師のやむを得ない事情のため中止となりました。

【講座4】「自分の足で歩き続けるための足と靴を見直そう！」

開催日 令和8年2月8日（日）

場所 介護実習室

参加者 12名

受講料 無料

講師 キャリア育成学科助教 東海林 藍

内容 最初に、健康を保つための足のお手入れの仕方についての解説をお聞きいただいた後、一緒に足指の動きを良くする体操を行いました。その後、足の形やサイズに合った靴の選び方についてお聞きいただきながら、ご自身の足や靴を計測していただき、靴の選び方を知っていただきました。最後に、靴の履き方によって歩いた時の感覚が変わる体験もしていただきました。参加者の皆様には、適切なフットケアと靴の見直しが全身の健康につながることを考えるきっかけにいただけたようです。



【講座5】「プログラミング教育って何をするの？」

開催日 令和8年2月28日（土）

場所 PC教室

参加者 11名

受講料 無料

講師 子ども学科助教 尾高 慶彦

内容 前半は講義形式で、私たちの生活を大きく変化させてきた情報技術の移り変わりや、学校でのプログラミング教育を通して子どもたちに身につけてほしい考え方について解説を行いました。後半は、小学校の授業でも使われているプログラミング言語「スクラッチ」を実際を使ってキャラクターを動かしたり、色や形、動きを変えたりする体験をしていただきました。参加者の方々は、思い思いのルールで試行錯誤しながらプログラミングに取り組まれていました。



【講座6】「貝殻で頭の柔軟体操」

開催日 10月4日（土）

場所 図書館1階 グループワークエリア

参加者 7名

受講料 無料

講師 子ども学科特任教授 大野 照文

内容 ハマグリの貝殻を手がかりにして、貝殻の機能や生きていた時の貝の体の動きを推理していただきました。つぎに、特製のぬいぐるみ模型を用いて、少しずつ正解にたどり着く体験をしていただきました。参加者の皆様には、貝殻をテーマに実物を観察し他の人と一緒に考えることで理解を深めていただいたようでした。



【講座7】「地球と生命の歴史」

開催日 11月15日（土）

場 所 図書館1階 グループワークエリア

参加者 11名

受講料 無料

講師 子ども学科特任教授 大野 照文

内 容 地球誕生から46億年間の生物進化の歴史を概観するため、世界中の化石を実物や映像で確認していきました。最後に津市美里地区が昔海の底であったため、古代の化石が豊富に確認できることを紹介しました。参加者の皆様には、身近な場所が生物の進化に大きくかかわっていることに興味を持っていただいたようでした。



【講座8】「探究活動ってなあに？」

開催日 令和8年1月17日（土）

場 所 図書館1階 グループワークエリア

参加者 9名

受講料 無料

講師 子ども学科特任教授 大野 照文

内 容 古代生物が種の生き残りを賭けて適切に周囲の状況に対応することから始まった探究活動を、我々の生活に置き換えて考えていただきました。生活に必要な能力を向上させることや学びへの好奇心が、進化や進歩には欠かせないものだという結論から、参加者の皆様には、例えば子育てのヒントなどとしても受け止めていただいたようでした。



高田短期大学付属図書館 公開講座

「図書館司書と楽しむ文学とおしゃべりの講座」（全2講座）

【講座1】「源氏物語 宇治十帖を味わう —— 主人公は結局誰!？」

開催日 11月5日（水）

場 所 図書館1階 グループワークエリア

参加者 10名

受講料 無料

講師 図書館司書 瀬古 幸弘

内 容 『源氏物語』の第三部にあたる「宇治十帖」を取り上げて、そのあらすじや主要な登場人物たちの関係を解説しました。この部分で主人公と考えられることが多い「薫」ですが、「浮舟」との恋愛感情がすれ違いのまま物語が終わってしまいます。そうした結末を通して、作者がこの作品で本当に描きたかったテーマは何だったのか、この部分だけ作者が異なる可能性も踏まえながら考察しました。



【講座2】「映画監督 ビクトル・エリセ —— 10年に一度のめぐりあい」

開催日 令和8年2月25日（水）

場 所 図書館1階 グループワークエリア

参加者 5名

受講料 無料

講師 図書館司書 瀬古 幸弘

内 容 ビクトル・エリセ監督の映画「ミツバチのささやき」「エル・スール」「瞳をとじて」を部分的

にはありましたが、解説をお聞きいただきながら鑑賞していただきました。作品の社会的背景や登場人物、人物と人物の関係、象徴的なシーン等についてお聞きいただき、作品の魅力とテーマに迫りました。最後に、当館でご利用が可能なDVDやスペインやポルトガルを舞台とした文学作品、歴史、芸術、映画等に関する本もご紹介させていただきました。



仏教教育研究センター

研究会の開催

研究テーマ：「国宝・親鸞聖人筆『西方指南抄』の研究」

真宗の開祖である親鸞聖人が著された『西方指南抄』の研究書を発刊することを目的に毎月1回研究会を開催しています。現在は、翻刻作業を進めています。

仏教教育研究センター公開講座（高田本山教学部 共催）

地域の方々に仏教に触れる機会をご提供することを目的に、高田本山教学部との共催にて、真宗高田派本山の高田会館ホールにて開講しました。なお、いずれも受講料は無料です。

第1回	日 時	6月12日（木）13：30～15：30	受講者	29名
	題 目	「ともに生きる」とは一自死の活動から一		
	講 師	中川 結幾 研究員（高田中・高等学校非常勤講師）		
第2回	日 時	10月 8日（水）13：30～15：30	受講者	27名
	題 目	三重の仏教福祉の源流 一明治・大正・昭和（終戦まで）一		
	講 師	千草 篤磨 氏（特別養護老人ホーム報徳園園長、高田短期大学名誉教授）		

仏教基礎講座（高田本山寄附講座）

高田本山からの寄附を基に実施する講座で、仏教や真宗に関する基礎的な内容に加え、真宗高田派の歴史や法宝物に関する知識を以下の日程で学んでいただきました。

日 時	8月18日（月）～8月22日（金） 9：00～17：50（50分の昼休憩あり）			
対 象	寺族及び一般			
受講料	無料（但し、テキスト代は実費負担）			
教 科 講 師	「仏教学」	栗原 廣海	研究員（高田短期大学名誉教授）	
	「仏教史」	金信 昌樹	研究員（真宗高田派善昌寺住職）	
	「真宗学」	松山 智道	研究センター長（高田短期大学特任講師）	
	「真宗史」	清水谷正尊	研究員（高田短期大学学長）	
	「高田の歴史と法宝物」	佐波 真	研究員（高田中・高等学校非常勤講師）	

仏教専門講座（高田本山寄附講座）

仏教基礎講座と同じく高田本山からの寄附を基に実施する講座で、仏教や真宗に関するより専門的な知識を学んでいただくために、以下の日程で年間10回の講座（試験日として11回目あり）を開催しました。

なお、この専門講座における講座科目は隔年で内容が変わり、全10科目（隔年で5科目）を開講します。この講座は、文部科学省の履修証明制度に則った「履修証明プログラム」として開講し、全10科目の講座を修了された方には学校教育法第105条に基づいた履修証明書を交付します。

日 程	4月25日（金）	5月30日（金）	6月27日（金）	7月25日（金）
	9月26日（金）	10月17日（金）	11月28日（金）	12月19日（金）
	1月30日（金）	2月27日（金）	3月 6日（金）	
	9：00～17：50（50分の昼休憩あり）			
対 象	寺族および一般（真宗高田派の教学を学びたい方）			
受講料	無料（但し、テキスト代は実費負担）			
教 科 講 師	「仏教学講読Ⅱ」	藤田 正知 研究員	（高田中高等学校教諭）	
	「真宗学概説」	松山 智道 研究員	（高田短期大学特任講師）	
	「真宗学講読Ⅱ」	中川 結幾 研究員	（高田中・高等学校非常勤講師）	
	「真宗史概説」	北島 恒陽 研究員	（真宗高田派正泉寺住職）	
	「真宗教学史」	島 義恵 研究員	（真宗高田派聖洞寺住職）	

運営委員会開催の状況

第1回7月25日、第2回11月11日、第3回令和8年1月29日、
（内容）専門講座について、基礎講座について、センター研究会について、
令和8年度センター年間行事予定について、令和8年度公開講座講師について、
令和8年度の講座について

仏教行事委員会

学内仏教行事の実施

	新入生本山参詣	宗祖降誕会（奉讃法会）	灌仏会
開催日	4月3日（木）	5月19日（月）	6月16日（月）
講 師	清水谷 正尊 （本学学長）	千草 篤磨 （本学名誉教授）	梅林 久高 （高田学苑学苑長）
参加者	222名	213名 （1年のレポート提出者数）	204名 （1年のレポート提出者数）

	追弔会	報恩講
開催日	10月20日（月）	12月15日（月）
講師	松山 智道 （本学特任講師）	清水谷 正尊 （本学学長）
参加者	201名	186名

育児文化研究センター

I. 地域子育て支援事業

1. 地域開放事業「おやこひろば たかたん」

子育て家庭の支援と子育て支援に関する研究フィールドの「おやこひろば たかたん」は、津市を中心に子育て親子の皆さんにご利用いただいています。スタッフの見守りの中、親子や子ども同士、親同士がゆったりした雰囲気であい遊び、交流を深める場として開催しています。また、学生がボランティアや授業で入る機会があり、ひろばには活気がもたらされ、学生には体験からの学びの場となっています。

1) 「おやこひろば たかたん」活動状況と利用者数

開催日時 毎週月曜日、第1・第3木曜日 10:00～12:00

場 所 育児文化室（1号館2F） 参加対象 未就学児とその保護者、妊婦
令和7年度 69回ひろばを開設し、子どもと保護者を合わせて延べ1473名の利用。

2) 子育て講座

ひろば開催日（月1回）にセンター研究員を講師に子育て講座を開催しています。

講座日	テーマ	講師	参加者数
5/15	みんなで語ろう！子育てのこと	子どもの健康支援チーム （チェスト）	5組
6/19	親子で遊ぼう！～お家でできる科学あそび～	尾高 慶彦	12組
7/17	守ろう！子どもの命～緊急時の対応について学びましょう～	津市北消防署	7組
9/18	イヤイヤ期の子育て&簡単・時短幼児食レシピ講座	(株)江崎グリコ	16組
10/16	つまるとあぶないたべもののおはなし	気道異物啓発チーム「つぶっこの会」	5組
11/20	自然の中で子育てを～森をおさんぽしよう～	才賀 美奈	13組
12/18	ぽかぽか焚火で温まろう	谷 慶子	9組
1/15	楽しく体験！ミュージックセラピー♪	長谷川 恭子	15組
2/19	絵本で遊ぼう！	岩附 啓子	13組

2. 子育て相談

地域への子育て支援の事業として、子育て相談を予約制で行っています。今年度より発達を中心に相談を受けています。令和7年度は4件の相談利用がありました。

相談内容	担当者	令和7年度基本相談日
発達相談	中嶋麻衣	前期 第2金曜. 第4水曜 11時
	伊藤拓也	後期 第2水曜. 第4月曜 11時

II. 研究会

センター研究員の活動の場として定例研究会とグループ研究会を開催しています。

1. 定例研究会（年2回予定）

- 第1回 第69回定例研究会 5月15日（木） 15：30～ 第4会議室
参加者21名
研究報告 古谷 淳 研究員「民間企業からみる保育人材定着の現状と方略について」
- 第2回 第70回定例研究会 令和8年2月26日（木） 15：30～ 第4会議室
参加者21名
研究報告 各グループ研究会

2. グループ研究会

- グループ研究①「子育て支援について」（6名）
グループ研究②「おやこひろばたかたんにおける学生の学びについて」（3名）
グループ研究③「自然保育とこれからの保育者養成」（10名）
グループ研究④「発達障がいのある子どもへの支援について」（4名）

III. 学生支援事業

1. ボランティアでの参加

今年度の主な活動は、おやこひろばの場で「個人の保育体験」と「壁面飾り等の保育教材作り」を中心に進めました。

個人の保育体験では、事前にこのボランティアで学びたいことは何かを聞き取り（志願書）、活動後に振り返りました（報告書）。実習前の保育への自信につながることや保護者とのコミュニケーションの大切さへの気づきを確認されました。

壁面飾り作りは、実際に作成することで大きさや材料、テーマに関して多くの学びがありました。



2. ゼミ活動での参加

ゼミの授業を利用して平常のおやこひろばや休日のファミリーデーに参加や企画・運営をしています。学生同士で親子で楽しめる内容を考え、実践し、振り返る実践の場となっています。ファミリーデーでは多くの親子に対応する機会になっています。参加親子にとっても、学生の活気と一生懸命さに満足していただいています。

【おやこひろば】

6/9	亀澤ゼミ	見学
6/30	青木ゼミ	見学
7/21	榊原ゼミ	誕生会
12/22	山本ゼミ	ハンドベル
1/26	中島ゼミ	ペープサート
1/29	青木ゼミ	誕生会

【ファミリーデー】

7/19	福西ゼミ 権部ゼミ 青木ゼミ	縁日 水遊び お面作りなど
12/13	長倉ゼミ 福西ゼミ 榊原ゼミ 亀澤ゼミ	劇 クリスマス製作 パラバルーンなど

3. 授業での参加

昨年度より開講された「たかたん保育特別演習（子育て支援）」では、定期的におやこひろばに参加しています。今年度は日頃のおやこひろば4回とイベント1回を計画から実践まで行いました。継続的にひろばに参加することで、前回の課題を改善して次に活かしたり、保護者の方に自然と話しかけられるようになったりなど、経験を積み重ねる成果が表れています。また、一緒にする学生同士が相談したりフォローしあったりしながら取り組んでおり、チームで協力する意味を感じた学生もいました。



音楽の選択授業では親子に向けてのウクレレコンサートもありました。学生たちは少し緊張しながら演奏し始めましたが、大きな拍手をもらい、終わった後は満足そうでした。

IV. 地域連携事業

1. みえ次世代育成応援ネットワーク

みえ次世代育成応援ネットワークに運営委員として参画し、県行政と地元企業や地域子育て団体と連携し、子育て支援活動事業に取り組みました。

「みえの子ども応援プロジェクト」ありがたいの一行詩コンクールに多くの学生が応募しました。

2. 地域連携自然保育推進事業

自然保育協議会の主催事業として「みえの自然保育交流会（R8.2.7/伊賀市立島ヶ原保育所）」を行いました。保育者、地域の実践者、県や市の行政関係者、保護者など、約40名の様々な立場の方々と意見交流を行いました。その他、協力事業として、三重県の「自然保育導入に向けたガイドライン」策定に協力しています。今年は県内の実践園4園に視察訪問・ヒアリングを行いました。令和8年度中のガイドライン完成を目指しています。

3. 主催事業（子ども学科共催）

「親子で楽しむ はじめて★おんがく会」

講師 文化団体「音楽のアトリエ MUSICANO（ムジカーノ）」4名
杉本佳代 青木美和、荒木弓佳、松江咲恵子

日時 5月24日（土）10:30～11:30

場所 高田短期大学 講堂

内容 プロによる音楽会と親子ふれあい遊び（1時間程度）

対象者 子育て家庭（未就学児）40組、保育者100名程度



参加者 親子が41組（大人68名 子50名）、
保育関係者・学生（主催・共催側を含めて40名程度）

VI. 津市委託事業

「父と子のふれあいイベント」

開催日時 10月4日（土）10:00～12:00

場 所 高田短期大学 造形室（木工体験）、育児文化室（ママサロン）

参加者 木工体験 10組20名（5歳～9歳の児童と父親）
ママサロン1組

講 師 林 幸秀（名古屋柳城短期大学教員兼造形作家）
林 韓燮（名古屋柳城女子大学教員兼家具デザイナー）



介護福祉研究センター

I. 研究活動

介護福祉研究センターでは、地域の福祉施設等の関係者や介護福祉関係で活動していただいている方々、卒業生を研究員に招き、令和8年3月現在50名（内卒業生20名）の研究員が在籍しています。今年度は年間4回の定例研究会を開催し、各分野の情報交換を行い、地域に還元できるよう学びあっています。

1. 定例研究会

1) 第58回定例研究会 6月19日（木）18:00～19:30

参加者 上山由紀子、東海林藍、橋本晃、高林光暁、千草篤磨、中川千代、
川喜田多佳子、山本啓介、寺家尚美、近田泰貴、庶務：高臣亮太
伊藤由香、大橋一喜、伊藤香乃、高島大和 参加者15名

【テーマおよび発表者】

「介護を学ぶ外国人留学生と卒業後の支援 ― “本人の責任” を超えた視点で考える」

伊藤 由香（本学外国人留学生支援室）

【発表内容】

外国人にとって、日本の受入れ体制がどのように理解されているのか。また、日本人の外国人に対する考え方、関係性について制度的背景から現状を説明された。特に、外国人受入れで抱える多くの問題は、「個人の問題」という見方で捉えられる傾向が強い。

現在、在留外国人は370万人を超えており過去最多となっている。コロナ禍で一度は下がったものの、2024（令和6）年から再び増加している。また、介護現場の人手不足が57万人（2040（令和22）年推計）となっており、その労働力の穴埋めとして外国人を受入れている現状もある。そもそも日本は外国人が増えること、移民政策は行わない方針をとっているが、事実上移民として受け入れている現状について政府への疑問が生じている。留学生については、アルバイトなどを規制緩和した経緯があり、労働力不足に対応した施策という側面がある。ただし、アルバイトで制限を超えて働くことがないように注意も必要であると示された。介護の在留資格は現在4つのルートがある。日本は移民政策を取らない構えであるため、その内容は少しずつ変更を加えられてつくられてきた。その結果、複雑な仕組み（制度）となり、外国人の立場が不安定となっている。つまり、受入れの際に問題が生じて、それは複雑な制度そのものの問題であって「個人の責任」とは異なる。

最後に、これらを踏まえ、留学生支援には知識と視点の転換が必要不可欠であり、受入れ側である日本社会のあり方が、外国人の生活に影響を及ぼしていることを強調され発表を終えた。

以上の発表に対し、研究員及び参加者から多数の質問、共感の声があがった。介護老人福祉施設の経営に携わる研究員からは、介護を学ぶ留学生を受入れる立場としての発言があり、活発な意見交換の場となった。



2) 第59回定例研究会 9月12日(金) 17:00~18:30

参加者 上山由紀子、東海林藍、長谷川恭子、千草篤麿、中川千代、服部優子、
世古口正臣、山本啓介、村尾悠、吉川幸希、中村匠、西畑里咲、間瀬由乃、
前田彩、庶務：高臣亮太 参加者15名

【テーマおよび発表者】

「特別養護老人ホームにおける音楽療法の実際とその効果」

長谷川 恭子研究員（本学講師）

【発表内容】

今回の研究会では、特別養護老人ホームにおける音楽活動を題材に、音楽療法士による「音楽療法」と一般的なレクリエーションとしての音楽活動との違いについて報告が行われた。助成を受け、2024（令和6）年、6月から10月にかけて全5回実施されたプログラムでは、季節に合わせた選曲や、シェーカーやクラベスといった負担の少ない楽器を活用するなど、利用者が無理なく参加できる工夫がなされていた。8月にはトーンチャイムを取り入れ、9月には利用者自身が演奏に関わる活動も行われた。さらに、以前歌った曲を繰り返すことで記憶の想起を促すなど、療法としての効果を意識した実践も報告された。

進行にあたっては、見当識をうながす際に否定的な印象を残さないよう、リアリティオリエンテーションの考え方を取り入れていた点が印象的であった。また、音楽療法士がピアノ演奏を担うため参加者の観察が難しい場面もあったが、動画に記録することで「体でリズムを取る」「指揮をする」といった利用者それぞれの反応を後から確認できた点は示唆に富むものであった。さらに、各回を異なる職員が担当したことで、介護職員と音楽療法士の連携の重要性も強調された。

利用者からは「一緒に歌えて楽しかった」「良い時間になった」といった声が寄せられ、音楽療法が非日常の楽しみを提供していたことがうかがえた。発表では、音楽療法が非薬物療法として持つ意義や、継続的に実施するための頻度確保の課題、さらに音楽療法士の活動の難しさについても共有された。介護福祉士が音楽療法のエッセンスを学び、現場に活かす可能性についても議論がなされていた。

最後に、集団で歌える曲が減少している現状や、制度的な評価の必要性も指摘された。報告全体を通じ、音楽療法の効果と課題、そして介護現場での今後の活用の方向性について多くの示唆を得ることができた。



3) 第60回定例研究会 12月17日(水) 18:00~19:30

参加者 上山由紀子、東海林藍、長谷川恭子、中川千代、服部優子、山本啓介、吉川幸希、
植村民樹、伊東秀幸、川喜田多佳子、 庶務：高臣亮太 参加者11名

【テーマおよび発表者】

「渚園での取り組み」

近田 泰貴研究員（グループホーム渚園施設長）

【発表内容】

研究会では主に施設での取り組み等について写真を交えながら報告された。グループホームのご利用者は認知症であるが、ご利用者個々の能力（出来ること）は職員の想定をはるかに超えており、職員の思い込みや病気の症状だけでご利用者を判断していることを痛感する場面が多々あるとのことであった。

グループホーム内では様々なイベントが催されている。季節の行事ではご利用者が率先して楽しめる様子があった。屋外でバーベキューを行った際には、普段硬い物を苦手とし殆ど召し上がられない方が、この日は沢山召し上がったとのことで、普段と違う環境や雰囲気から食欲も増進したケースがあった。

研究会の後半では、近田研究員の実祖母の話があった。5年ほど前までは畑仕事に勤しむ社交的な祖母であったが、2022（令和4）年コロナ禍からは認知症の症状が進行した。ショートステイで過ごすことも難しくなり、その後グループホーム渚園で入所することとなった。施設職員として家族として実祖母と関わる中で、認知症の進行に落胆はしたが、過ごす環境や支援の方法によって表情が和らぎ徐々に進行も緩やかになっていったとのことであった。

最後に、介護の仕事をしていると「大変だね」と言われることが多いが、介護従事者として「感謝、感激、感動」を与えてもらえる介護の仕事に魅力を感じている。今後も介護を通じて関わった方が少しでも元気になっていただけるよう従事していきたいとの報告があった。



4) 第61回定例研究会 令和8年2月26日(木) 17:30~19:00

参加者 上山由紀子、東海林藍、長谷川恭子、中川千代、山本啓介、千草篤麿、植村民樹、
服部優子、松枝桂子、 庶務：高臣亮太 参加者10名

【テーマおよび発表者】

「ガバナンスにおける人間関係の重要性」

伊東 秀幸研究員(本学講師)

【発表内容】

ガバナンスとは、「統治・支配・管理」を意味する言葉であり、企業経営において公正な判断や運営がなされるよう、監視・統制する仕組みを指す。今回の研究会では、「ガバナンスにおける人間関係の重要性」と題し、本研究に至った経緯から、職場のガバナンスを向上させるためには社会が求めるヒューマンスキルを不易と流行に分解し、いかに社会が変化しようとも自律と協調の両立を図る自己調整力の確立が重要であるという内容が報告された。ガバナンスの評価規準として、①学びに向かう力・人間性、②知識・技能、③思考力・判断力・表現力がある。実社会や現代の日本の背景を踏まえ、ガバナンスの効いた目指すべき姿について具体的事例を交えた報告があった。

研究会後半では、人間関係の重要性から、職場で起きた実際のハラスメントの紹介があり、その事例をグループワークで実践した。ハラスメントする側と受ける側を体感し、音声をボイスメモに残して文字化することで、言葉の圧が見えてきた。また、音声で聞くよりもより強い表現として残っていた。

終了後、伊東先生に向けて研究員から個別の質問もあり、活発な意見交換の場となった。



II. 実施事業

介護福祉セミナー

実施日 12月14日(日) 13:30~15:30 参加者 23名

テーマ 「認知症の基礎知識&愛風さんの音楽DEリフレッシュ」

講師 上山 由紀子研究員(本学講師)

愛風(フォークソング、J-POPグループ)

認知症の基礎知識は「認知症の種類」「アルツハイマー型認知症・新しい薬」「軽度認知障害(MCI)」
「認知症予防」の講義内容で、クイズ方式で楽しく行われました。

軽度認知障害(MCI)で見つかれば、健康な状態へ回復する見込みがあること、軽度認知障害(MCI)や軽度認知症の場合、アルツハイマー型認知症の原因と考えられているアミロイドβタンパク質を除去する作用のある「レカネマブ」「ドナネマブ」の対象になることから早期発見・対策が大切であることが詳しく説明されました。また最近のトピックとして、金沢大学でのドナネマブ投与で脳内原因物質が除去され、投与が完了した事例についても紹介がありました。また認知症予防では、「危険因

子」に気を付けるとともに、日ごろから脳に良い生活を取り入れ「認知予備能力」を高めることが大切だと話がありました。

愛風さんのコンサートでは「クリスマスイブ」「いい日旅立ち」「川の流れるように」など全11曲が演奏されました。愛風さんの優しさ溢れるトークと素晴らしいチームワークとともに、懐かしいメロディを聞かせてもらいました。参加者の中からは「知っている曲ばかりで涙がでました」「お人柄がにじみでている音楽で優しい気持ちになりました」「シーズンにあった音楽が聴けて良かった」などの感想が寄せられました。

認知症の理解を深め、コンサートでリフレッシュするとともに脳を活性化し、この機会に生活を見直してみようと前向きになれるセミナーでした。



Ⅲ. 地域の介護福祉啓発活動

1) 一身田桜町地区との連携事業「一身田桜町にここサロン」講師派遣

実施日 5月26日(月) 10:00~11:30 参加者 28名

講師 中川 千代研究員(本学非常勤講師)

一身田桜町地区高齢者にここサロンに、中川千代研究員が講師として参加しました。「アンパンマンのマーチ」の合唱や、その歌に合わせて「リズム膝たたき」をみんなで行いました。

そのあと、介護福祉研究センターで行った第3回作文コンクールの最優秀賞、優秀賞を朗読し介護について話し合いました。



2) 足浴ボランティア 「報徳園」

実施日 6月28日(土) 14:00~15:30 参加者 報徳園利用者の皆さん

東海林ゼミの学生10名で報徳園に足浴ボランティアに行ってきました。ゼミ生は二人一組となり、5名の利用者様に足浴をさせていただきました。足浴の時間は2班に分かれて行い、足浴をしていない班は教員が行うフットケアの施術を見学しました。

実習などで学生が高齢者と関わる場面はありますが、教員がその様子を直接見る機会は多くあり

ません。今回は利用者様と学生が関わる姿を間近で見ることができ、大変有意義でした。学生にとっても、利用者様との関わりを通じて多くを学ぶ時間となったことと思います。利用者様は学生との会話を楽しみながら足のケアを受け、自然と笑顔があふれていました。最後には「ありがとう」との感謝の言葉もいただき、学生にとって心に残る経験となりました。



3) 認知症予防の日 啓発活動「津駅西口」

実施日 6月6日(金) 9:00~10:00 場所 津駅西口

上山ゼミの学生は、令和7年4月に認知症サポーター養成講座を受講し、認知症サポーターになりました。学生は、講義内容で特に認知症予防が印象に残ったようです。

6月14日は「認知症予防の日」です。認知症サポーターで学んだことを基に津駅西口で「認知症予防の啓発活動」に取り組むことにしました。学生一人ひとりができることを考え、屋外でも目立つように「高田短期大学」「認知症予防の日」の旗を作成し、配布するチラシを準備するなど、学生と教員で協力しながら仕上げました。

当日は、認知症サポーターのイメージカラーであるオレンジ色のTシャツを着て活動しました。一人でも多くの人に「認知症予防の日」を知ってもらえるよう、チラシの渡し方や声かけの言葉、声の大きさなどを工夫し、また、今までの介護の学びを活かして高齢者には耳元で穏やかに話すなどの対応がみられました。どの学生も笑顔で熱心に活動し、活動後には「やってよかった」と口々に語り、自分たちの学びを地域に還元する貴重で有意義な体験となりました。





5) 介護研究ってなんだろう？ はじめの一步講座（介護研究初級セミナー）

実施日 10月2日（木） 13：00～15：00
 12月8日（月） 13：00～15：00
 令和8年2月5日（木） 13：00～15：00

参加者 報徳園 職員2名

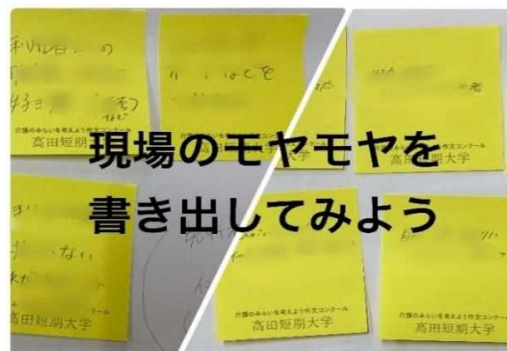
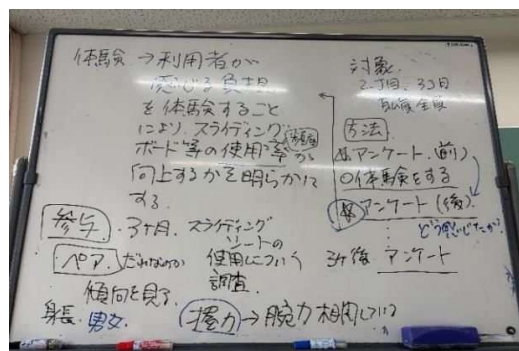
講師 東海林 藍研究員

今年、初めての試みとして「介護研究」を学ぶセミナーを開催しました。

「研究」と聞くと身構えてしまうかもしれませんが、研究とは、いわば“職人技を誰もが再現できる技術へと変えていくこと（一般化）です。現場には多くの研究の種が存在しており、それを拾い上げることが本セミナーの役割でした。

参加者からは現場ならではの意見が数多く出され、第3回には、土台となる研究計画を作成することができました。来年度は実際の実施段階へ進む予定であり、その成果が楽しみです。

多忙な業務の中で研究に取り組むことは容易ではありませんが、こうした活動は介護の質の向上のみならず、介護福祉士の専門職としての地位向上にもつながると考えています。看護師が「看護研究」を行うように、介護福祉士にとっても「介護研究」が当たり前の営みとなるよう、今後もその一步を支援していきたいと思ひます。



IV. 研究成果の発行

1. 介護福祉研究センター紀要「高田短期大学介護・福祉研究」第12号（令和8年3月発行）

執筆希望書を編集委員会で協議し執筆者を決定しました。研究論文3編、実践報告2編に原稿依頼しました。

高田短期大学介護・福祉研究第12号執筆依頼一覧

*掲載順は各種別順

研究員名	単・共	原稿種別	表題	頁
千草 篤磨	単著	研究論文	認知機能検査の判定結果と介護福祉士による認知症の主観的評価との関係について	11
杉本 あゆみ	単著	研究論文	アントレプレナーシップ及びエージェンシー教育におけるキャリア意識の変容 —キャリア育成学科介護福祉コースの学生を対象として—	11
橋本 晃	単著	研究論文	介護事業所のテクノロジー活用定着に向けた課題 —介護現場における役割分担の視点から—	13
中川 千代	単著	実践報告	認知症のある義母が最期まで自分らしく暮らし続けた軌跡 ～家族の向き合い方・社会資源の活用等～	13
上山 由紀子	単著	実践報告	地域に広めよう！認知症の正しい知識 ～大学での活動を通して～	15

学内施設設備の整備事業の実績

音楽棟 屋上防水工事

施工業者：（株）辻工務店

施工費用：1, 155, 000円

施工時期：9月



2号館大講義室及び視聴覚室 脚付きホワイトボード設置

施工業者：奥山黒板(株)

設置費用：378, 400円

施工時期：6月



全館照明器具LED化工事

施工業者：オークトリー(株)

施工費用：41, 830, 000円

施工時期：9月～令和8年3月

教職員パソコン入替（Windows11端末）

納入業者：富士フイルムビジネスイノベーションジャパン(株)
（設定：システムテクノ(株)）

納入台数：ノート52台 デスクトップ12台

納入費用：8, 868, 344円

納入時期：9月

高田中学校・高田高等学校

1. 【建学の精神に基づいた教育推進事業】

本事業では、仏教教育に基づく宗教的情操の涵養を目的として、週1時間の「仏教」の授業、月々の本山参詣、および仏教講話を実施いたしました。これらの活動を通じ、生徒一人ひとりが命の尊さを深く自覚し、豊かな人格形成と心の成長を促す教育を推進いたしました。

仏教行事

○5月21日（水）宗祖降誕会

浄土真宗の宗祖である親鸞聖人のご生誕852年をお祝いいたしました。人間として生まれたことの尊さに気づき、その喜びを分かち合う集いとなりました。

○6月20日（金）花まつり

お釈迦様のご誕生をお祝いし、そのご恩に感謝する集いを執り行いました。例年通り、本校の行事日程に合わせ6月に実施し、生命の輝きを尊ぶ機会となりました。

○9月19日（金）追弔会

秋の彼岸に際し、これまでに浄土に往生された本校ゆかりの教職員および生徒の皆様を偲ぶ集いを実施いたしました。特に、昨年度にご往生されました教職員・生徒のご遺徳を仰ぎ、全校生徒・教職員が共に焼香を捧げました。亡き人を偲ぶとともに、いま生かされている自分自身の「ご縁」を喜び、あらためて我が身を見つめ直す深い学びの場となりました。



2. 【生徒募集推進事業】

高校入試では、各中学校訪問や学校説明会を本校にて実施し、中学入試では、県内生の受験者数が減少している状況を鑑み、これまで行ってきた「入試説明会」「学びのひろば」に加え、幅広い学年の小学生を対象とした見学会や説明会を本校にて実施し、在校生が伸び伸びと学業、部活動などに精進、活躍している姿を可視化する広報活動を展開しています。

高校学校見学会・個別見学会

学校見学会

○8月23日（土） 約1,550名参加（中学3年生）

全体会（講堂）①校長挨拶

②コースの特色と入試のシステム（Ⅲ年制総主任）

③学校生活（生徒会役員によるパネルディスカッション）

④高校時代を振り返って（卒業生と教員の対談）

校内見学 ボランティアスタッフ（120名の生徒）

個別見学会

○第1回 9月20日（土）実施 173名参加（中学3年生）

学校説明・校内見学・部活動見学または個別相談

○第2回 10月4日（土）実施 176名参加（中学3年生）

○第3回 11月15日（土）実施 187名参加（中学3年生）



中学2・1年生対象 高田高校見学会

今年度からの試みで、中学校だけでなく、学習塾にも中学生の参加を募りました。

○令和8年3月20日（金・祝）実施 154名参加（保護者含む）

生徒会による学校説明・校内ウォークラリー

探究活動発表・ユネスコスクール活動紹介・模擬授業・在校生との座談会

中学入試説明会・見学会

中学校見学会「高田の中学生を体験しませんか？」

6月7日（土） 146組参加（小学3年生～6年生）

—本校生徒による学校説明と体験講座—

レクリエーション（高田人生ゲーム）・工作（エコマイクを作ってみよう）・クイズ・高田の行事紹介・化学実験・模擬授業・教員との懇談・校内見学ツアーなど



中学校説明会 各回20組参加（小学1年生～6年生）

① 6月21日（土）実施

② 8月7日（木）実施

③ 8月30日（土）実施

④ 10月4日（土）実施

挨拶 学校説明・生徒作交通安全啓発アニメーション視聴・校内見学・質疑応答

第1回学びのひろば 8月24日（日） 98組参加（小学4、5年生）

たかだ夏季 社会オリンピック「高田からの挑戦状」

仏教講座「歩いてみよう 高田本山」

国語講座「カードDE句会」



第2回学びのひろば 2月11日（水・祝） 100組参加（小学4，5年生）

たかだ冬季 英語オリンピック「チームで対抗 英語ゲーム！」

理科講座「DNAの二重らせん構造を作ろう！」

美術講座「自由に表現しよう」



中学校入試説明会 9月23日（火・祝） 220組参加（小学6年生）

学校概要および2026年度（令和8年度）入試についての説明

3. 【探究活動推進事業】

3年制、6年制ともに、本格的な探究活動を行っています。

3年制では、7月9日（水）2年生の探究活動中間発表会を実施し、1年生と3年生が参観しました。質疑応答を行うとともに、発表に関するアドバイスなどを書いてそれぞれの発表者に渡しました。同時に学年を超えた交流も行いました。また、2学期からは、2年生の活動のメンターとして三重大大学の学生8名が助言や指導を行っています。

6年制では、中高6カ年を貫く探究プログラムを実施していますので、「4. 【SSH推進事業】」をご覧ください。



4. 【SSH推進事業】

中高6カ年を貫く探究プログラム

令和7年度は、中学1年生から高校5年生を対象に探究プログラムを実施しました。中学1年生では「言語的探究スキル講座」を行い、ディベートの実施、比叡山校外宿泊学習における調べ学習、シンキングツールの使用などを通じて、言語的な探究スキルを養いました。中学2年生では「数学的探究スキル講座」を行い、データの分析方法や活用方法を学び、2度のアンケート実践を通じて数学的な探究スキルを養いました。中学3年生では「社会課題探究講座」を行い、SDGsや今ある社会課題と向き合いながら、課題発見能力を養いました。

また、中学1～3年生では「高田サイエンスリサーチ」を行い、内容を段階的に発展させながら、理科の研究活動を行いました。各学年において、3学期にはクラス内発表を行い、代表者は令和8年4月の高田サイエンスリサーチ全体発表会において発表を行います。また、中学校3年生では、ポスター作製も実施しました。

高校4年生では「高田リサーチプログラム1」を行い、メタ認知等の学習を通じて自己の在り方生き方を見つめる活動を行い、また、8月19日（火）～8月21日（木）に実施した東京校外宿泊学習では、日本科学未来館において探究スキルを向上させました。その後、高校5年生で行う個人探究に向け、先行研究調査や課題探究の計画書作成を行いました。

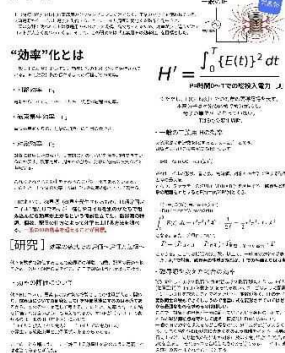
高校5年生では「高田リサーチプログラム2」を行い、少人数ゼミによる個人課題探究活動を行いました。7月の中間発表を経て、年度末にはポスター作製を行い、令和8年3月11日（水）に高田リサーチプログラムポスター発表会を校内にて実施しました。

中学3年生ポスター一例



高校5年生ポスター一例

工業用IHの効率向上の条件の数式での評価はに



高田サイエンスリサーチ全体発表会

4月15日(火)に、中学1年生～高校4年生全体で、研究成果の全体発表会を実施しました。三重大から5名の先生を招き、ご講評いただきました。発表内容、質疑応答共に、非常にレベルが高く良い発表会となりました。

【審査員特別賞】

- ・反磁性体を用いて物体を磁力で動かすための条件 (4年)
- ・墨における線の上下逆転現象が発生する条件 (4年)
- ・鎖の噴水現象が発生する原因について (4年)

【校長賞】

- ・色による記憶の変化 (2年)

【生徒投票賞】

- ・鎖の噴水現象が発生する原因について (4年)



SSH東海フェスタ

7月19日(土)に、SSH東海フェスタが名城大学天白キャンパスを会場に開催されました。これは、東海地区の全てのSSH校が集まり、発表者・見学者のべ1,000名程が参加する発表会です。本校からは、代表口頭発表に、高校4年生の岩崎理仁さん、笹田みや美さん、中里心音さん、平山蒼人さんのグループが出演し、「鎖の噴水現象が発生する原因について」を発表しました。代表ポスター発表には、高校6年生の立木拓登さんが出演し、「長期地震予測の信憑性」の発表を行いました。高校3年生の駒田時臣さん、潮田右京さんは、それぞれ一般ポスター出展を行いました。また、本校生徒35名、引率教員4名がバス1台で会場に行き、発表会を見学しました。



SSH生徒研究発表会

8月5日(火)～7日(木)に、SSH生徒研究発表会(全国大会)が、神戸国際展示場を会場に開催されました。本年度は、高校6年生の立木拓登さんが代表として発表しました。研究内容は「長期地震予測の信憑性」です。また、高校5年生・高校4年生から5名の生徒が本校の代表として全日程に参加し、6日には、バス2台で生徒55名、引率教員8名が発表会を見学しました。全国レベルの研究発表を見ることで、今後の個人探究のヒントが得られた、非常に有意義な見学となりました。



Mie Science Research Presentation 2025

3月15日(日)に、Mie Science Research Presentation 2025が四日市市地場産業振興センターを会場に実施されました。本年度は、高校4年生の西村奏輝さんと中森瑠偉さんが「Confirmation by Re-dissolution Behavior of DNA Extracts」を、金田小春さんと吉岡紗希

さんが「Conditions for Moving an Object by Magnetic Force Using Diamagnetic Materials」をテーマに、英語にて発表を行いました。本校としても、初めての英語による研究発表となり、生徒・教員共に、非常に有意義な経験となりました。

発表の様子①



発表の様子②



ポスターセッションの様子



高田リサーチプログラムポスター発表会

3月11日（水）に、高校5年生全員が前後半に分かれてポスター発表を行い、高校4年生及び5年生が発表を観覧しました。SSH採択後に初めて実施したポスター発表会でしたが、質の高い課題探究が多く、次年度以降につながる発表会となりました。本校教員も多数参観を行い、また、三重大学からも参観をいただきました。



各種の課外活動

その他にも、各種科学オリンピック対策講座、SSH実験教室、SSH特別講座、夏期特別講座を実施しました。また、科学系部活動の活動支援も行いました。

夏期特別講座 SSH研修旅行 伊豆大島

7月28日（月）～7月30日（水）に、伊豆大島において、本校で企画した希望者による研修旅行を実施し（津波警報発令のため延泊1日）高校4年生8名、高校1年生2名、引率教員3名が参加しました。大島は、活火山である三原山が噴火を繰り返してできた、日本ジオパークに認定されている火山島です。ここでは、火山地形や、噴火によって形成された溶岩の大地がどのように森林に変化していくかなど、ダイナミックな地球を身近に感じられます。研修では、三原山の山頂や、周辺の特徴的な地形をめぐりながら植物を観察し、フィールドワークを行いました。



各種科学系オリンピックの出場状況

大会名	出場者数	備考
物理チャレンジ	高校生7名	1名実験レポート奨励賞受賞
化学グランプリ	高校生3名	—
生物学オリンピック	高校生1名、中学生7名	—
科学の甲子園ジュニア	中学生60名（20チーム）	1チーム3名全国大会出場
科学の甲子園	高校生8名	三重県大会 準優勝
日本ジュニア数学オリンピック	中学生19名	1名銅賞受賞
日本数学オリンピック	高校生3名	2名地区優秀賞受賞

SSH実験教室 実施一覧

実施日	事業	内容	参加者
6月7日(土)	SSH実験教室①	化学めっきと黄銅の作成	21名
10月4日(土)	SSH実験教室②	キレート滴定による水の硬度測定	25名
10月27日(月)	天体観望会	レモン彗星・惑星・月の観測	27名
11月15日(土)	SSH実験教室③	血液総合実験	14名
12月20日(土)	SSH実験教室④	光センサーの活用と場の考察	4名
1月31日(土)	SSH実験教室⑤	カフェインの抽出と精製	14名
2月7日(土)	SSH実験教室⑥	光の回折と干渉	20名

SSH特別講座 実施一覧

実施日	事業	内容	参加者
2月18日(水)	SSH特別講座①	ワトソンとクリックの論文読解	18名
3月9日(月)	SSH特別講座②	英語で学ぶDNAの抽出実験	26名

5. 【ユネスコスクール推進事業】

ユネスコスクール認定への経緯と環境学習

平成29年度から温室効果ガスの一つである二酸化炭素の濃度に注目した地球温暖化防止をテーマとする産学連携の環境教育を行ってきました。そして、その成果が認められ、本校創立150周年を迎えた令和4年11月に「ユネスコスクール」に認定されました。それを機に、本校では「ESD：持続可能な開発のための教育」を実践し、将来にわたって持続可能な社会を構築する担い手を育む教育を軸にして、日々教育活動を行いました。そして令和6年度には、環境大臣から「令和6年度気候変動アクション環境大臣表彰」及び「ESD実践動画100選認定」をW受賞いたしました。

令和7年度に私たちが主として取り組む環境学習のテーマは、「ゼロ・カーボンスクール」です。2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロとする（カーボンニュートラル）脱炭素社会の実現を目指すことを国が宣言したことを受け、「カーボンニュートラルをいち早く学校内で実現可能か？」を探究する活動です。それを可能にするためにCO₂排出量削減策として、省エネ活動・フードロス問題（ゴミ問題削減）・エコキャップ回収活動（リサイクル推進活動）をCO₂吸収量増加策として、校内緑化活動、さらには本校に隣接している国宝真宗高田派本山「専修寺」の森を環境省が目標と掲げる30by30の「自然共生サイト」として登録申請する活動を計画中で、現在「高田本山専修寺の森」の生態調査を継続して行っています。また4月には、台湾教育省からの招待を受け、台湾台中市の国立中興大学で開催された環境フォーラムで本校の「ゼロ・カーボンスクール」の取り組みを発表しました。5月には環境教育で学術交流を行っている台湾（苗栗県）の大同高校の生徒30名・教員2名が教育交流目的で本校に来校しました。ランチタイムには令和6年12月に台湾でもB1グランプリに輝いた「津ぎょうざ」が振る舞われ、楽しい交流ができました。

台湾 大同高校との交流



台湾：国立中興大学での環境フォーラム



また、今年度12月には、昨年度学術交流提携を結んだネパールのドウルガダッタ中等学校とのオンライン交流にて両校の環境学習の成果発表を行い、両国間での環境に対する意識の違いと今後の取り組みについて話し合うことができました。

さらに3月には、台湾高雄女子高校で開催された国際環境フォーラムに出席し、本校のゼロカーボンスクールへの取り組みについて発表を行いました。高雄女子高校とは、これまでオンラインで交流を続けてきておりましたが、このフォーラムを機に同校とも学術交流提携を結び、今後互いに協力し合い両校の環境学習を益々発展させていくことを確認しました。

台湾：高雄女子高校での環境フォーラム



韓国忠北(チュンブク)外国語高校との文化交流

今年度新たな取り組みとして、韓国忠北(チュンブク)外国語高校(旧清州外国語高校：以下忠北)との文化交流を開始しました。この交流では3つのステップを組み、両校の生徒が徐々に交流を深めていくことを目指しました。最初のステップは「手紙交換」です。日本(高田)側は高校3年コース生徒、忠北側は日英学科生徒が参加しました。参加人数は各校約80名ずつです。両校で生徒をマッチングし、その相手に対し手紙を書きました。高田の生徒は日本語の手紙に英語の訳をつけ、忠北の生徒は日本語の下に韓国語の訳をつけました。8月末にお互いの手紙を受け取りました。生徒は海外の同世代の若者の価値観を共有できたようで、とても嬉しそうに手紙を読んでいた。また忠北の生徒たちも日本語を学ぶ良い機会になったそうです。次のステップとして、この手紙交換をした生徒同士がオンラインで交流を行いました。9月17日(水)文化祭展示発表日に双方高校2年生の生徒を中心に参加しました。忠北からは学校紹介の動画や、日本のアニメに自分たちで日本語の台詞を吹き込んだ動画を見せてもらいました。日本も韓国も英語を母語としない中で、英語はもとより他の言語も堪能であることに、高田の生徒は驚いていました。

さらに次のステップでは動画の交換を検討しています。高田側は「伝統食の継承」を目指し「梅干し作り」に挑戦しました。これには高校生徒会のメンバーが積極的に参加してくれました。まず6月中に梅のヘタ取りから塩漬けをし、梅酢が上がった時点で赤紫蘇を入れて漬け込みました。そして夏休みの炎天下の中、天日干しを行いました。このような作業は面倒に感じるのではないかと教師が憶測していましたが、生徒会メンバーは楽しんで作業に参加してくれ、できあがった梅干しを見てとても喜んでくれていました。

このような姿を見ると将来への希望が感じられます。これら一連の作業を3本の動画にまとめ、忠北へ送りました。忠北では日本の伝統食の作り方が良く分かったと好評をいただきました。

2学期以降は、継続的にオンライン交流を実施しました。9月の文化祭では本校学生ホールに大型モニターを設置し、茶道部のお点前を中継したり、各クラスの展示を案内したりしました。忠北からは日本のアニメ動画に生徒がセリフを吹き替えたものを披露していただきました。12月の2回目のオンライン交流では、高校Ⅱ年生Ⅰ類生徒が修学旅行で学んだ長崎の平和についてプレゼンテーションを行いました。さらに同日、高校Ⅰ年生特選クラスでは忠北の生徒たちが作ったSDGsに関する絵本について披露してもらいました。3学期に入ると、忠北から韓国ラーメンやのりといった伝統食のほかユンノリなどという伝統的な遊び道具が届きました。その伝統遊具を高校Ⅰ年生特選クラスの授業で実際に使ってみました。そこから日本の伝統についても再認識しました。これらの活動が生徒達の持続可能な学びに少しずつ貢献できたと思います。

来年度は両校で更に「自国の食」について考えていける取り組みをしていきたいと思っています。これはひとえに日本も韓国も「食糧難」の危機に直面しており、未来を担う青年達にこの問題について考える機会を少しでも多く得たいと考えているからです。

またこれらの活動や交流を通し、日韓友好の先駆け役を果たすと共に、世界平和へとつながるよう祈っています。



6. 【キャリア教育推進事業】

医学部進学を目指す講座

- 4月19日（土）医学部進学ガイダンス
対象：高校5・6年生と保護者
講師：メディカルラボ
- 5月23日（金）医療講座①
対象：高校6・Ⅲ年生
講師：三重大学 奥川喜永先生
- 6月10日（火）医療講座②
対象：高校6・Ⅲ年生
講師：三重中央医療センター 信岡祐先生
- 7月7日（月）医療講座③「2025年医学部入試の振り返りと現状」
対象：高校6・Ⅲ年生と保護者
講師：メディカルラボ
- 7月15日（火）医療講座④「医学部志望理由書の書き方」
対象：高校6・Ⅲ年生と保護者
講師：メディカルラボ
- 11月18日（火）医療講座⑤「医学部面接試験対策と練習」
対象：高校6・Ⅲ年生
講師：メディカルラボ、本校教員

- 1月29日(木) 医療講座⑥「三重大学医学部推薦入試模擬面接と練習」
対象：高校6・Ⅲ年生
講師：メディカルラボ、本校教員



進学ガイダンス

- 5月16日(金) 実施 対象：高校3年生
4年制大学、短期大学、専門学校など全48校による
学校説明会が行われ、各自2校の説明を聞きました。
- 12月18日(木) 実施 対象：高校2年生
4年制大学、短期大学、専門学校など全52校による
学校説明会が行われ、各自2校の説明を聞きました。

高大連携事業

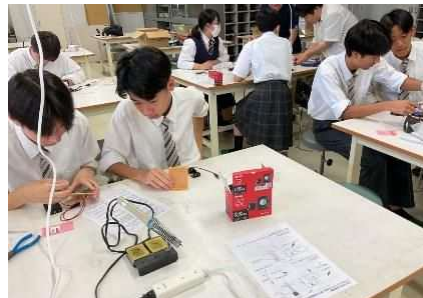
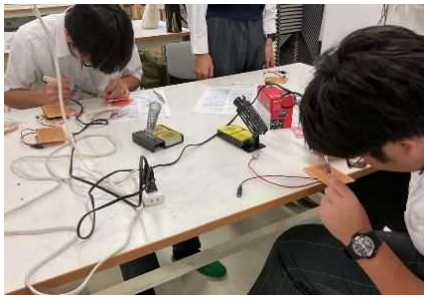
- 6月2日(月) 高田短期大学 特別講座
子ども学科 「乳幼児教育で育まれる力、保育者の仕事とは？」
キャリア育成学科 オフィスワークコース「パソコンでフォトレタッチバナー広告作成体験」
キャリア育成学科 介護福祉コース「清潔を保つことの重要性について シャボンラッピング
を体験してみよう！」
- 6月30日(月) 鈴鹿医療科学大学 進路探究講座
「はり師・きゅう師の資格とスポーツトレーナーへの道」
- 7月14日(月) 三重県立看護大学 看護職キャリアデザイン講座
- 7月17日(木) 三重大学 教育学部「医学・医療を支える解剖生理学」



- 8月26日(火) 三重大学 生物資源学部「三重大学農場実習」



- 8月27日(水) 高田短期大学 夏休み特別企画「保育の現場体感ツアー」
三重大学 生物資源学部「PCRによるDNAの増幅実験」
- 8月28日(木) 三重大学 工学部「レゴを使ったロボットプログラミング」
生物資源学部「光るタンパク質を調べよう！
ホタルやクラゲの光る仕組みについて」
- 8月29日(金) 三重大学 教育学部「リスニングの極意」
工学部「磁石に関する物理学基礎実験」



- 9月 2日(火) 京都大学 人間・環境学研究科「なぜAI時代に英語を学ぶのか」
- 11月14日(金) 豊田工業大学 「最先端エレクトロニクスの基本は電磁気学」
- 12月19日(金) 四日市看護医療大学 大学施設見学と演習等体験講座
「医療現場におけるコミュニケーションとバイタルサイン」
「検査の世界を体験しよう」
- 2月9日(月) 東京大学法科大学院出張教室
東大法科大学院・西村あさひ法律事務所共催
対象：中学3年生
- 3月17日(火)・18日(水) 「中3セミナー」講演
対象：中学3年生
17日：英語教師 竹岡広信氏
18日：東京大学教養学部講師 宇野健司氏

7. 【生徒会活動・部活動の推進】

中高生徒会

- マナー啓発活動への取り組みとして、「No manners, no life!」をスローガンに掲げ、各クラスでアンケートを行って啓発に努め、生活委員によるスライド発表を行うことで、意識づけとマナー向上を図っています。
- エコキャップ回収運動
- 使い捨てコンタクトレンズの空ケース回収運動
- 自転車安全講習会 9月26日(金)実施 安全推進委員会にて



部活動

中学校

○柔道部

第72回三重県中学校柔道大会 男子60kg級 第3位

○馬術部

2025DRESSAGE in SUZUKA SPRING STARTER CLASS I	優勝
STARTER CLASS II	優勝
ジムカーナ	優勝
2025DRESSAGE in SUZUKA Summer 馬場馬術競技第1課目	優勝

○将棋部

文部科学大臣杯第21回小・中学校将棋団体戦三重県大会 団体戦 優勝

○新体操同好会

第55回三重県ジュニア選手権大会 優勝

○なぎなた部

第39回三重県なぎなた選手権大会兼知事杯

第12回三重県小中学生なぎなた選手権大会中学生試合の部

優勝

○放送部

第42回NHK杯全国中学校放送コンテスト全国大会

ラジオ番組部門「さん付け？呼び捨て？」 最優秀賞・文部科学大臣賞（2年連続）

朗読部門

2名入選



高等学校

○令和7年度第75回三重県高等学校総合体育大会総合成績 全日制

女子優勝

男子4位

○柔道部

中国インターハイ柔道競技 女子個人

5位入賞

○新体操部

全国高等学校総合体育大会新体操大会

個人総合

優勝

2連覇

種目別ロープ

優勝

種目別クラブ

優勝

第78回全日本新体操選手権

個人総合

4位

種目別スティック

2位

種目別ロープ

優勝

種目別クラブ

優勝

第41回全国高等学校新体操選抜大会

個人総合

3位

○馬術部

第10回全日本高校生地場選手権大会

団体総合

優勝

10連覇

馬場馬術選手権

入賞

障害飛越選手権

入賞

馬場馬術競技

入賞

小障害90m

入賞

○文芸部

第20回全国高校生短歌大会

個人戦

最優秀作品賞

第40回全国高等学校文芸コンクール

短歌部門

優秀賞

○放送部

第72回NHK杯全国高校放送コンテスト全国大会

テレビドキュメント部門 『はぴーす～おせっかい広めたい～』

優良賞（5位）

アナウンス部門

優良賞（5位）

ラジオドキュメント部門 『推薦書ゼロ改革』

入選（11位）

創作テレビドラマ部門 『ゴーストライター』

制作奨励賞

朗読部門

入選

第49回全国高等学校総合文化祭

ビデオメッセージ部門「三重弁でときめきたい！」

優秀賞

文化庁長官賞



8. 【国際理解教育推進事業】

華江高級中学（台湾）来校

来校日：4月17日（木）

来校者：生徒35名、教員2名、スタッフ1名、ガイド1名

高校4年生、5年生、Ⅱ年生と交流

授業参加、特別授業、高田生と昼食、本山参詣

東ヘルシンキ音楽院イーストウインド演奏会

開催日：6月11日（水）

東ヘルシンキ音楽院の三つの吹奏楽団の一つ「イーストウインド」は12歳から20歳の演奏者58人が海外での演奏旅行に参加しており、これまでにパリ、マルタ、カナダなど数多くの地を訪問しています。本校講堂にて行われた演奏会には、中学校1年生から3年生の生徒が参加しました。本校生徒が英語で曲や楽器の紹介を行い、フィンランドの曲や楽器の演奏に加え、すべて英語での演奏会は音楽鑑賞としてだけでなく異文化交流としても貴重な経験になりました。



イギリス語学研修

行 先：ハートフォードシャー（ロンドンから約60km）

期 間：7月21日（月・祝）～8月7日（木）

宿泊形態：寮ステイ

参 加 者：25名（高校Ⅱ年3名、Ⅲ年1名、5年13名、中学3年8名）

現地の語学学校インターナショナルクラスで他国の生徒とともに学ぶ英語学習を主眼に置いた研修プログラム



セントモニカ高校生徒とのオンライン交流会

実 施 日：7月23日（水）、25日（金）

参加生徒：高田高校60名（高校Ⅰ年生・4年生・Ⅱ年生）

セントモニカ高校69名（9年生～12年生）

自己紹介、校内の教室案内、各校の校則紹介、趣味について など



オーストラリア生受け入れ

期 間：9月13日（土）～22日（月）

留 学 生：パレード高校（生徒7名・先生2名）セントモニカ高校（生徒6名・先生3名）

ホスト生：13名（高校Ⅰ年生9名、4年生4名）

校内見学、本山参詣、授業参加、文化祭参加、部活動参加、伊勢・鳥羽研修、京都研修



オーストラリア訪問

期 間：令和8年3月13日（金）～26日（木）

留学生：高校1年生（8名）・高校4年生（4名）

授業参加、オーストラリア市内研修



ターム留学

期 間：令和8年1月24日（土）～3月29日（日）

場 所：ニュージーランド オークランド

留学生：中学3年生（7名）

ホストスクール（現地校）での授業履修



9. 【危機管理・安全教育への取り組みの推進事業】

防災訓練

実施日：11月5日（水） 13時20分～15時30分

自然災害の発生に対して危機意識と防災意識を高め、まず自己の命を守り、次に身近な人を助け、さらには地域に貢献できる防災教育に取り組んでいます。

本年度は、全校生徒・地域住民の約2,600名を対象に高田中高等学校の東グラウンドで消防・防災、救急訓練を実施する予定でしたが、当日が雨天のため体育館での実施となりました。第一体育館に避難し、津市北消防署 横山様の講話と講評を拝聴しました。その後、非常用備蓄食品の贈呈式を行いました。式では、1. 生徒会長挨拶（白い小箱の説明）2. 贈呈 3. 自治会代表挨拶で、生徒会4名から各自治会長4名へ白い小箱を贈呈しました。最後に、大津波警報発令を想定して津波避難の訓練を行いました。



白い小箱（非常用備蓄食品）

防災用の備蓄品として日本非常食推進機構の「白い小箱」を入学生用に723個、先生用入れ替えのため224個購入しました。防災学習と同時に、障がい者への理解など、より深い学びを含んだ防災啓発活動に取り組んでいます。卒業時には無駄のない循環防災備蓄「白い小箱運動」の一環として、事業所や海外に「白い小箱」を寄贈します。

防火・防災管理講習および自衛消防業務講習の受講（教職員）

・自衛消防業務新規講習 3名 ・自衛消防業務再講習 1名

本校では以上の取り組みによって、予測不可能な緊急事態が発生した場合でも、災害等に対する正しい知識に基づき、生徒が自ら冷静な判断力、速やかな行動力を発揮できるよう、防災意識の高揚に取り組むべき事業を展開しています。

安全教育講演

講演「スマホ・パソコン安全教室」

実施日：4月10日（木）

対象：中学1年生・高校1年生

講師：NTTドコモ

SNS等によるトラブルが例年多発しています。サイバー犯罪に巻き込まれないように生徒のみならず保護者に対しても常日頃から安全教育への意識を高めるとともに、犯罪防止の徹底に努めています。SNSでのトラブルを未然に防ぎ、正しい使い方を促すため、中学1年生と高校1年生を対象に、講演会「スマホ・パソコン安全教室」を開催しました。



生体AI利用に伴う事前指導

実施日：7月8日（火）

対象：高校3年生（その他学年はアーカイブ視聴）

講演「いま、みなさんが危ない！インターネット社会の歩き方！」

実施日：7月14日（月）

対象：中学全学年

講師：伊勢市教育研究所 ICTアドバイザー出口 晃先生
ネット依存と学力・脳への影響についての講演会

交通安全指導

実施日：5月16日（金）

対象：中学1年生

講師：津ドライビングスクール

交通安全については、交通ルールの理解と遵守、道路交通法の理解、信号・標識の意味と遵守、交通マナーの習得、安全意識の向上を目的とした「自転車安全講習会」を、津ドライビングスクールの協力で、2限目に開催しました。ヘルメット着用推進の教育も引き続きJAFの協力のもと行っています。また、万一のために自転車保険に加入することも義務づけています。



AED救命講習

実施日：令和8年2月19日（木）・24日（火）

対象：高校4年生

講師：津北消防署

本講習は、津北消防署の講師による指導のもと、高校生を対象に突然の心肺停止が発生した場合の救命の重要性を理解してもらうとともに、心肺蘇生法およびAEDの基本的な使用手順に関する知識と技能を習得してもらうことを目的として実施しました。



10.【教職員資質向上への取り組み事業】

初任者学内研修

新任教職員を対象に、13回の校内研修を行いました。「建学の精神」や教育ビジョンを深く浸透させるとともに、本校独自のカリキュラム（SSHなど）や校風に即した実践的な指導技術を理解することで、教員としての専門性と組織の一員としてのアイデンティティを確立し、学校の未来を担う質の高い教育活動を維持・発展させることができました。

	研修テーマ	獲得できるスキル・目的	実施日時	担当者
0	デバイス設定、アカウント登録	各ツールへのログインができる	4月 4日（金）15:00～16:00	ICT担当 場所：0A教室
1	高田の歴史と建学の精神について	グランドデザインの理解	4月 8日（火）14:40～15:30	学校長
2	コンプライアンス・学校の危機管理	服務規程と教育法規の理解 危機管理の理解	4月 9日（水）15:40～16:30	教頭
3	学校法人の規定について	規定集の認知	4月10日（木）15:40～16:30	事務局長
4	ICT教育活用	教育活動における ICT活用シーンの理解	4月14日（月）15:40～16:30	研修担当
5	ALやAIを用いた授業デザイン	授業計画をデザインできる	4月15日（火）15:40～16:30	研修担当
6	生徒指導	指導基準の理解	4月17日（木）16:30～17:20	生徒指導部長
7	教職の実務 中・高の教務	教務内規の理解	4月18日（金）16:30～17:20	教務部長
8	進路指導	進路指導の理解	4月21日（月）16:30～17:20	進路指導部長
9	探究活動における教員の役割	総探の理解 伴走者としての役割の理解	4月22日（火）16:30～17:20	研修担当
10	定期考査での学習評価	考査における 評価のつけかたの理解	4月23日（水）16:30～17:20	研修担当
11	人権教育推進	人権活動の理解	4月24日（木）16:30～17:20	人権教育担当
12	特別支援教育・カウンセリング	生徒実態、症状の理解	4月25日（金）15:40～16:30	養護教諭 カウンセラー
13	SSH活動、ユネスコスクール活動	活動の理解	4月28日（月）15:40～16:30	各事務局

教職員ワークショップ

実施日：5月 7日（水）職員会議後

3月17日（火）職員会議後

中・高等学校への第一志望者を増やすことを目的に、学校の強みと今後の課題、そして具体的な提案について議論が交わされました。

本校の強みは、手厚い個別指導（進路・英検対策）、確かな進学実績（高い現役進学率と豊富な指定校推薦）、そして文武両道と多様な教育プログラムです。

今後の課題としては、「選ばれる私立」への転換、「公立の受け皿」というイメージの払拭、優秀層を獲得するために専願推薦や特待制度の導入、メディアを活用した積極的な広報、7限補習や土曜補講といった学習機会の拡充、コース再編の検討、組織・連携の強化、指導法の統一、成功事例の共有が挙げられました。

ティーチャーズカフェ

実施日：7月10日（木）16時40分～17時40分

新しい形態の研修として今年度から企画されたもので、「自身の取組を伝えたい」「他の先生の取組を聞きたい」という担任1年目の教員とベテラン教員を含め約15名が参加し、「三者懇談ってどうやるの？」をテーマに、ドリンクとお菓子を片手にアイデアを共有しました。

令和7年度 夏期教職員研修会

実施日：8月18日（月）8時50分～12時

本校講堂で学苑全職員を対象として開催しました。

○第一部 9時～10時15分（質疑応答含む）

演題「教育現場におけるハラスメント研修」

講師 楠井法律事務所 弁護士 山田瞳氏

○第二部 10時30分～12時（講演・落語）

演題「笑う門には福来る～いじめられっ子の僕が落語家になったワケ」

講師 落語家 林家染太氏

私立学校初任者研修中京地区研修会

実施日：8月19日（火）～21日（木） 名古屋ガーデンパレス

参加：5名（教職経験7年未満）

（財）日本私学教育研究所が主催し、愛知、三重、岐阜の3県合同の研修会に参加しました。この研修は、私立学校における教育指導の充実を図るため、初任者を対象に実践的指導力と使命感を養うとともに幅広い識見を修得することを目的としています。

第58回中部地区私学教育研修会（山梨大会）

実施日：9月4日（木）～5日（金）

参加：4名

（財）日本私学教育研究所が主催し、本年度は「未来を創造する特色ある私学教育」を研究目標とし、中部9県の私立中学校及び高等学校の教職員を対象に実施されました。4名の教員が教育課程・地理公民・理科・英語の各部会に分かれ研修を受けました。

私立学校中堅教員研修会

実施日：10月11日（土）～12日（日） 名古屋プライムセントラルタワー

参加：1名（教職経験10年～20年）

（財）日本私学教育研究所が主催し、本年度は、AI技術の進展が社会や教育に与える影響を踏まえ、私学の独自性をどのように活かすかを考察しました。

人権ウィーク

「人権に関する授業」12月17日（水）～12月20日（土）

本校は建学の精神にもとづき宗教的情操を養い、互いの人格・人権を尊重できる人物の育成に努めています。生徒ならびに教職員が人権にかかわる諸問題を「自分自身の課題である」という認識をもってその問題解決への実践力を得、学校や社会で生き活きと生活していくことができることを目指しています。人権ウィークの活動により、生徒達とともに人権のことを考え、さらに教員の実践教育に役立てることができました。

地区別人権教育研修会

実施日：5月16日（金）第1回研修 三重県庁講堂 参加1名

実施日：10月3日（金）第2回研修 三重県庁講堂 参加2名

実施日：1月20日（火）第3回研修 三重県庁講堂 参加2名

管理職及び人権担当者がそれぞれの役割を踏まえた組織的な人権教育の推進と、人権感覚あふれる学校づくりの取組の充実を図れました。

私立学校人権教育研修会

実施日：2月17日（火） 三重県私学協会主催 亀山市文化会館

教員36名参加

全体会：「発達特性の強い子どもと教育・支援」

講師 志村浩二さん（児童発達支援センター）

分科会：1「SNSと人権」

講師 中村尚生さん（反差別・人権研究所みえ）

2「人権大学での学びーAI時代の人権を考える」

講師 黒宮皓一先生（四日市メリノール学院高等学校）

3「結果的に人を傷つけてしまう理由」

講師 山川和博先生（鈴鹿中等教育学校）

1 1.【学校自己評価、自己点検推進、学校関係者評価委員会事業】

学校関係者評価委員会

第1回学校関係者評価委員会

実施日：7月15日（火）13時30分 本校特別会議室

出席者：高木委員・中湖委員・廣田委員・石川委員・塩谷委員・岡野委員

小島委員・松本委員

福山校長・箕田教頭・堀教頭・伊藤教頭・谷事務部長・久世庶務課長

高田中高等学校の特別会議室にて、第1回学校関係者評価委員会が開催され、本年度の方針、令和6年度の進学状況と学校自己評価、令和7年度の入学状況、生徒の活動状況について協議が行われました。

第2回学校関係者評価委員会

実施日：令和8年2月24日（火）13時30分 本校特別会議室

出席者：中湖委員・廣田委員・石川委員・小島委員・松本委員

福山校長・箕田教頭・堀教頭・伊藤教頭・谷事務部長・久世庶務課長

第1回と同じく高田中高等学校の特別会議室にて、第2回学校関係者評価委員会が開催され、本年度の進路状況、SSH及びユネスコスクールの活動と生徒の活動状況について報告及び協議が行われました。

学校自己評価

令和6年度の3月に教員を対象とした学校自己評価を、学校評価と自己評価の2種類に分け実施しました。学校自己評価は、教員自らが学校全体としての現状を把握するとともに自己の研鑽に役立てています。

今年度も令和6年度の学校自己評価を中学校と高等学校別に集計・分析しました。その分析を踏まえ、以下の対策を段階的に実施していくことが必要であると思われます。また、集計結果の総評を保護者会役委員会、保護者会総会、学校関係者評価委員会などで公表して、評価をいただきました。

中学校自己評価の分析

各項目の低下について、具体的な要因を教員間で共有し、議論する機会を設けています。アンケートやグループワークなどを活用し、現場の意見を丁寧に吸い上げています。特に、低下幅の大きい「授業」「教育」については、今年度から設置した事業構想委員会の主導で新入生にアンケート調査を行いました。その結果を分析し、具体的な対応を行う予定です。

授業については、授業改善のための研修会やワークショップの実施、成功事例の共有や授業見学の推奨、教材研究やICTの効果的な活用方法についての情報共有、生徒の意見を授業改善に活かす仕組みづくりなどを考えています。教育については、教員間の連携強化や情報共有の促進、学校運営全体の見直しを、ICT機器の活用については、ICTスキル向上のための研修機会の提供（初心者向け、応用編など）、ICTを活用した授業実践事例の共有、校内でのICTサポート体制の強化、効果的なICT教材の導入や開発支援を考えています。また、入試説明会については、説明会の内容・構成・資料の見直し、参加者の視点に立った情報提供の工夫、広報活動の強化（ターゲット層に合わせた情報発信）、教職員間の役割分担と連携の強化を考えています。

今年度の初任者研修では、例年の内容に加え「授業」「教育」「ICT機器の活用」「探究の時間」「観点別評価」の講座を実施しました。

今回の自己評価の結果は、学校の現状を把握し、今後の改善に向けた貴重なデータです。この結果を真摯に受け止め、教職員が一丸となって課題解決に取り組むことで、学校全体の教育の質

の向上につなげたいと考えています。まずは、各項目の低下の背景にある具体的な要因を丁寧に分析することから始めたいと思います。

高等学校自己評価の分析

定期考査については、考査問題の質、難易度、出題範囲、評価方法などを再検討し、生徒の理解度をより正確に測るための改善策を検討します。必要に応じて、授業内容との連携や考査後のフィードバックの充実を図ります。

総合的な探究の時間については、生徒の興味関心に基づいたテーマ設定、探究の進め方、教員の指導方法などを見直し、生徒が主体的に学びを深められるような工夫を取り入れます。

I C T機器の活用については、教員向けの研修を実施し、効果的な活用事例を共有します。授業での活用方法だけでなく、校務効率化への活用も検討します。

問題行動の防止と対応については、生徒理解を深め、早期発見・早期対応のための連携体制を強化します。生徒指導に関する研修を実施し、教員の指導力向上を図ります。

健康・自律については、健康診断の結果分析に基づいた指導の充実、生徒の自己管理能力を高めるための取り組みを検討します。

教育については、授業改善に向けた研究会や研修を実施し、授業力の向上を図ります。生徒の主体的な学びを引き出すための方法の導入を検討します。

環境・安全教育については、具体的な事例を取り入れた学習や、防災訓練の充実を図ります。生徒の安全意識を高めるための啓発活動を行います。

今回の自己評価は、学校の現状を把握し今後の発展に向けた重要な一歩です。この結果を活かし、教職員が一丸となって更なる学校インプルーブメントに取り組んでいくことが大切です。

12. 【施設設備の整備事業実績】

講堂プロジェクター及びスクリーン入替工事

施工業者 : 辻井電気設備
 施工費用 : 2,527,645円
 施工時期 : 7月23日～7月28日



4号館5階視聴覚教室プロジェクター入替工事

施工業者 : 辻井電気設備
 施工費用 : 1,727,000円
 施工時期 : 7月24日～25日



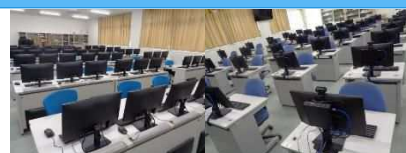
西グラウンド通学路舗装工事

施工業者 : (有)松村土木
 施工費用 : 13,112,000円
 施工時期 : 8月2日～8月20日



OA・IC教室パソコン入替

購入業者 : 富士フイルムビジネスイノベーションジャパン(株)
 購入費用 : 22,077,660円
 納入時期 : 8月31日



教職員パソコン入替

購入業者 : 富士フイルムビジネスイノベーションジャパン(株)
 購入費用 : 23,724,910円
 納入時期 : 9月30日



馬場横及びJR口駐車場サイン工事

施工業者 : (株)西出
 施工費用 : 825,000円
 施工時期 : 9月18日



4号館1階調理室 調理棚入替

購入業者 : (株)服部家具センター
 購入費用 : 315,100円
 購入時期 : 9月24日



財務の概要

資金収支計算書の概要

資金収支計算書は、会計年度の教育・研究その他の活動に対応するすべての収支内容並びに支払資金の収支のてん末を明らかにしたものです。

本学苑の資金収支決算総額は４５億３，７３９万円となり、前年度決算額と比較し２億７，８６７万円の増額となりました。

令和７年度 資金収支計算書総括

(単位：千円)

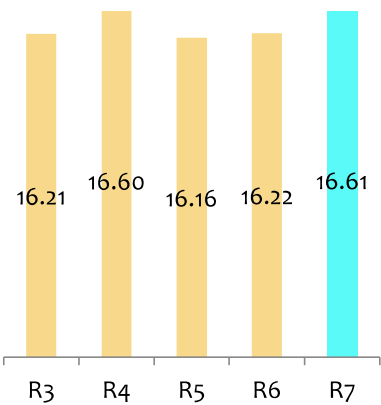
収入の部			支出の部		
科 目	決 算	前年比	科 目	決 算	前年比
学生生徒等納付金収入	1,661,485	38,985	人件費支出	1,957,852	▼ 38,268
手数料収入	47,846	4,816	教育研究経費支出	560,735	114,313
寄付金収入	6,974	1,168	管理経費支出	132,512	17,313
補助金収入	901,358	50,201	借入金等利息支出	0	0
資産売却収入	20,000	▼ 10,000	借入金等返済支出	0	0
付随事業・収益事業収入	44,568	7,594	施設関係支出	633	▼ 1,807
受取利息・配当金収入	17,813	4,213	設備関係支出	95,008	60,510
雑収入	128,146	▼ 79,970	資産運用支出	407,740	82,140
借入金等収入	0	0	その他の支出	1,120,936	16,400
前受金収入	291,450	38,830	資金支出調整勘定	△ 84,141	▼ 17,153
その他の収入	1,415,112	214,002			
資金収入調整勘定	△ 298,246	82,402			
当年度収入合計	4,236,506	352,242	当年度支出合計	4,191,275	233,448
前年度繰越支払資金	300,889	▼ 73,563	翌年度繰越支払資金	346,120	45,231
収入の部合計	4,537,395	278,679	支出の部合計	4,537,395	278,679

(注) △は計算書式上のマイナス表示、▼は比較上のマイナス表示（以下同じ）。

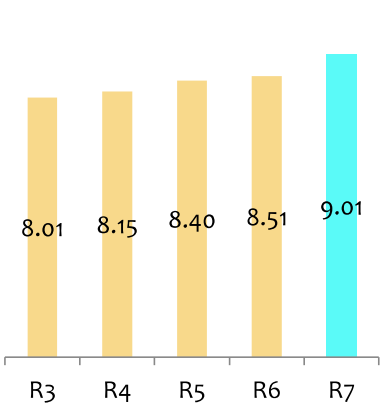
前年比は令和６年度決算との比較です。

主要科目の推移

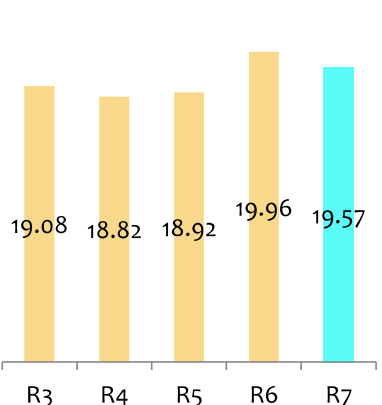
学生生徒納付金収入



補助金収入



人件費支出



令和7年度 資金収支計算書（短期大学）

（単位：千円）

収入の部			支出の部		
科 目	決 算	前年比	科 目	決 算	前年比
学生生徒等納付金収入	499,625	40,777	人件費支出	451,182	14,003
手数料収入	6,611	▼ 555	教育研究経費支出	233,887	79,951
寄付金収入	939	▼ 20	管理経費支出	40,290	5,257
補助金収入	170,046	45,118	借入金等利息支出	0	0
資産売却収入	0	0	借入金等返済支出	0	0
付随事業・収益事業収入	44,568	7,594	施設関係支出	0	▼ 812
受取利息・配当金収入	268	197	設備関係支出	40,266	34,002
雑収入	9,596	1,508	資産運用支出	0	0
借入金等収入	0	0	その他の支出	144,666	14,945
前受金収入	42,400	▼ 5,310	資金支出調整勘定	△ 38,886	▼ 24,020
その他の収入	135,342	13,109			
資金収入調整勘定	△ 55,305	▼ 4,661			
当年度収入合計	854,092	97,756	当年度支出合計	871,405	123,326
前年度繰越支払資金	50,576	10,458	翌年度繰越支払資金	42,604	▼ 7,972
収入の部合計	904,668	108,214	支出の部合計	914,009	115,354

令和7年度 資金収支計算書（中・高等学校）

（単位：千円）

収入の部			支出の部		
科 目	決 算	前年比	科 目	決 算	前年比
学生生徒等納付金収入	1,161,860	▼ 1,791	人件費支出	1,493,192	▼ 56,166
手数料収入	41,236	5,371	教育研究経費支出	326,848	34,362
寄付金収入	5,035	188	管理経費支出	60,674	4,429
補助金収入	731,311	5,083	借入金等利息支出	0	0
資産売却収入	0	0	借入金等返済支出	0	0
付随事業・収益事業収入	0	0	施設関係支出	633	▼ 996
受取利息・配当金収入	302	211	設備関係支出	54,570	26,336
雑収入	113,897	▼ 84,096	資産運用支出	0	0
借入金等収入	0	0	その他の支出	799,491	▼ 17,009
前受金収入	249,050	44,140	資金支出調整勘定	△ 40,572	1,324
その他の収入	864,115	36,201			
資金収入調整勘定	△ 242,942	87,063			
当年度収入合計	2,923,864	92,371	当年度支出合計	2,694,836	▼ 7,720
前年度繰越支払資金	136,048	▼ 74,963	翌年度繰越支払資金	265,141	129,093
収入の部合計	3,059,912	17,408	支出の部合計	2,959,977	121,374

活動区分資金収支計算書の概要

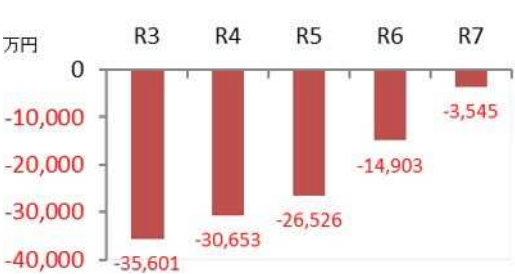
活動区分資金収支計算書では、資金収支計算書の決算額を「教育活動」「施設設備等活動」「その他の活動」の三つの活動区分ごとに区分し、活動ごとの資金の流れを明らかにします。

令和7年度 活動区分資金収支計算書

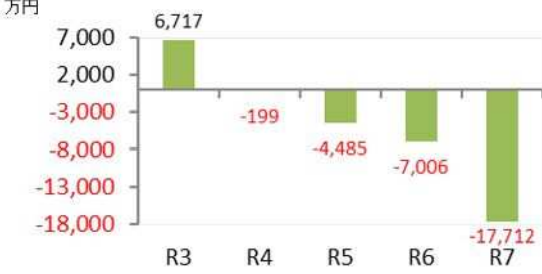
(単位:千円)

教育活動による資金収支				その他の活動による資金収支			
科 目		決算額	前年比	科 目		決算額	前年比
収入	学生生徒等納付金収入	1,661,485	38,985	収入	有価証券償還収入	20,000	▼ 10,000
	手数料収入	47,846	4,816		退職給与引当特定資産取崩収入	0	0
	特別寄付金収入	0	0		借入金等収入	0	0
	一般寄付金収入	6,974	1,168		預り金受入収入	853,361	15,197
	経常費等補助金収入	893,436	42,279		仮払金回収収入	27,574	2,087
	付随事業収入	44,568	7,594		立替金回収収入	324	239
	雑収入	128,146	▼ 79,970		修学旅行費預り資産取崩収入	71,900	▲ 2,586
	教育活動資金収入計	2,782,455	14,872		修学旅行費預り金受入収入	68,039	▼ 4,226
	人件費支出	1,957,852	▼ 38,268		卒業諸費預り資産取崩収入	15,457	554
	教育研究経費支出	560,735	114,313		卒業諸費預り金受入収入	15,528	749
管理経費支出	132,512	17,313	小計	1,072,183	2,014		
教育活動資金支出計	2,651,099	93,358	受取利息・配当金収入	17,813	4,213		
差引	131,356	▼ 78,486	その他の活動資金収入計	1,089,996	6,227		
調整勘定等	126,463	190,772	借入金等返済支出	0	0		
教育活動資金収支差額	257,819	112,286	有価証券購入支出	200,000	100,000		
施設設備等活動による資金収支	収入	施設設備補助金収入	7,922	7,922	退職給与引当特定資産繰入支出	10,000	▼ 3,510
		施設設備売却収入	0	0	預り金支払支出	856,087	19,659
		第2号基本金引当特定資産取崩収入	0	0	仮払金支払支出	27,574	2,087
		施設設備拡充引当特定資産取崩収入	250,000	150,000	立替金支払支出	355	25
		施設設備等活動資金収入計	257,922	157,922	修学旅行費預り資産繰入支出	68,039	▼ 4,226
	支出	施設関係支出	633	▼ 1,807	修学旅行費預り金支払支出	71,900	▲ 2,586
		設備関係支出	95,008	60,510	卒業諸費預り資産繰入支出	15,528	749
		第2号基本金引当特定資産繰入支出	0	0	卒業諸費預り金支払支出	15,457	555
		施設設備拡充引当特定資産繰入支出	197,740	▲ 14,350	長期前払金支払支出	2,185	539
		施設設備等活動資金支出計	293,381	44,353	小計	1,267,125	113,291
差引	△ 35,459	113,569	借入金等利息支出	0	0		
調整勘定等	0	3	その他の活動資金支出計	1,267,125	113,291		
施設設備等活動資金収支差額	△ 35,459	113,573	差引	△ 177,129	▼ 107,065		
小 計	222,360	225,859	調整勘定等	0	0		
				その他の活動資金収支差額	△ 177,129	▼ 107,065	
				支払資金の増減額	45,231	6	
				前年度繰越支払資金	300,889	▲ 73,563	
				翌年度繰越支払資金	346,120	45,231	

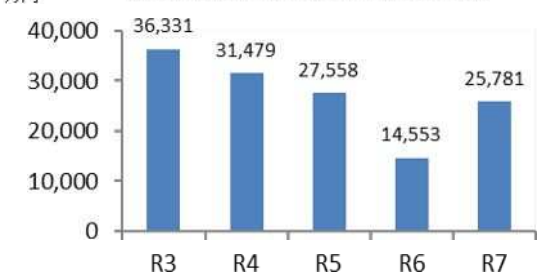
施設設備等活動による資金収支差額



その他の活動による資金収支差額



教育活動による資金収支差額

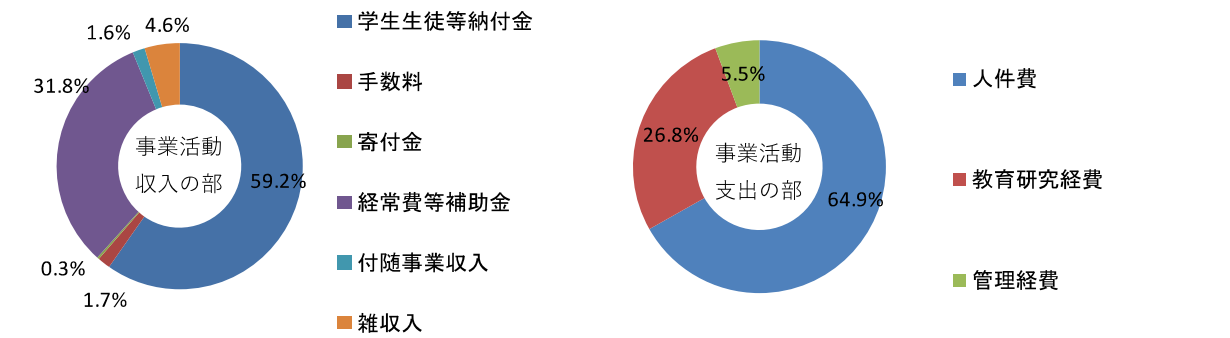


事業活動収支計算書の概要

事業活動収支計算書では、当該会計年度の諸活動に対応する事業活動収入・支出の内容及び基本金組入後の均衡の状態を明らかにします。収支を経常的なものと臨時的なものに、さらに経常的な収支を教育活動と教育活動外とに分けて把握することができます。

(単位：千円)

科 目				科 目			
		決算額	%			決算額	%
教育活動収入の部	事業活動収入の部			特別収支	収入の部		
	学生生徒等納付金	1,661,485	59.2%		資産売却差額	0	0.0%
	手数料	47,846	1.7%		その他の特別収入	7,922	0.3%
	寄付金	7,318	0.3%		本部負担金収入	0	0.0%
	経常費等補助金	893,436	31.8%		特別収入計	7,922	0.3%
	付随事業収入	44,568	1.6%		支出の部		
	雑収入	128,146	4.6%		資産処分差額	7,177	0.2%
	教育活動収入計	2,782,799	99.1%		その他の特別支出	78,698	2.6%
	事業活動支出の部				本部負担金	0	0.0%
	人件費	1,960,045	64.9%		特別支出計	85,875	2.8%
教育活動支出の部	教育研究経費	808,395	26.8%	特別収支差額		△ 77,953	
	管理経費	166,413	5.5%	〔予備費〕			
	徴収不能額等	0	0.0%	基本金組入前当年度収支差額		△ 212,194	
	教育活動支出計	2,934,853	97.2%	基本金組入額合計		△ 50,312	
	教育活動収支差額	△ 152,054		当年度収支差額		△ 262,506	
	収入の部			前年度繰越収支差額		△ 5,335,695	
	受取利息・配当金	17,813	0.6%	基本金取崩額		0	
	その他の教育活動外収入	0	0.0%	翌年度繰越収支差額		△ 5,598,201	
	教育活動外収入計	17,813	0.6%	(参考)			
	支出の部			事業活動収入計		2,808,534	
教育活動外収支	借入金等利息	0	0.0%	事業活動支出計		3,020,728	
	その他の教育活動外支出	0	0.0%				
	教育活動外支出計	0	0.0%				
教育活動外収支差額		17,813					
経常収支差額		△ 134,241					



基本金について

基本金には第1号基本金から第4号基本金まで4種類の基本金があります。

第1号基本金	施設設備の整備拡充のために支出した金額であり、本年度の組入額は5,031万円でした。主な内訳は、中高OA・IC教室及び教職員のPC入替、中高西グラウンド通学路舗装工事となります。
第2号基本金	施設設備を取得するため事前に組入れる金額で、本年度はありませんでした。
第3号基本金	教育・研究活動の維持向上を目的とした教育研究基金、奨学基金等の設定であり、本学苑は組入れを行っていません。
第4号基本金	学校法人の円滑な運営に必要な運転資金の額であり、今年度は検証の結果、妥当と判断されるため、組入・取崩共に行っていません。

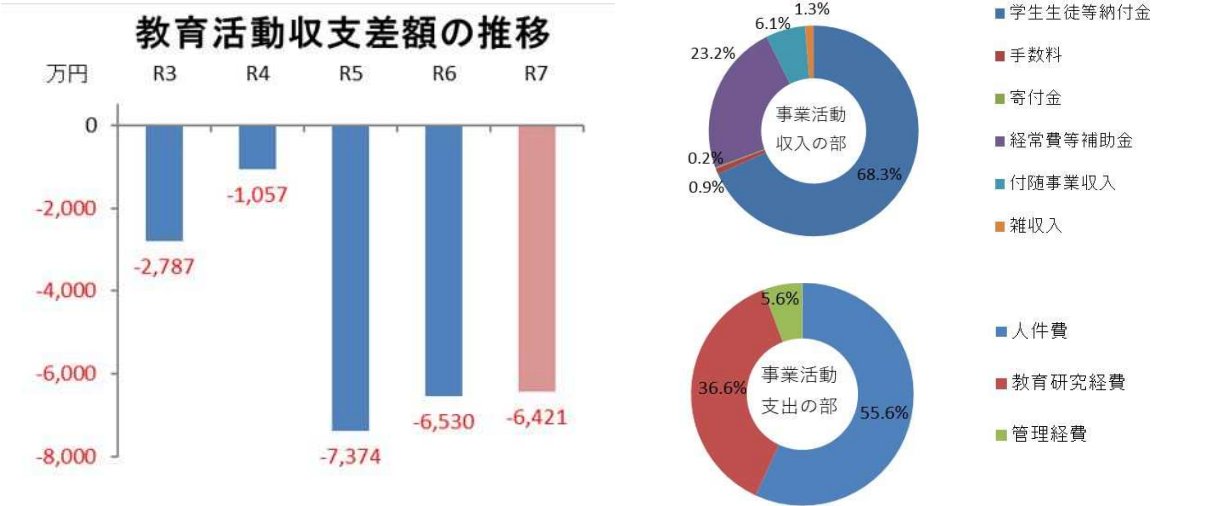
短期大学

事業活動収支計算書

					(単位：千円)				
科 目		決算額	%	前年比	科 目		決算額	%	前年比
教育活動収支	事業活動収入の部				特別収支	収入の部			
	学生生徒等納付金	499,625	68.3%	41,024		資産売却差額	0	0.0%	0
	手数料	6,611	0.9%	▼ 555		その他の特別収入	0	0.0%	▲ 248
	寄付金	1,258	0.2%	▼ 202		本部負担金収入	0	0.0%	0
	経常費等補助金	170,046	23.2%	45,118		特別収入計	0	0.0%	▲ 248
	付随事業収入	44,568	6.1%	7,594		支出の部			
	雑収入	9,596	1.3%	1,508		資産処分差額	662	0.1%	430
	教育活動収入計	731,704	100.0%	94,487		その他の特別支出	17,867	2.2%	17,867
	人件費	452,832	55.6%	8,663		本部負担金	0	0.0%	0
	教育研究経費	297,783	36.6%	79,337		特別支出計	18,529	2.3%	18,297
	管理経費	45,300	5.6%	5,396		特別収支差額	△ 18,529		▼ 18,545
	徴収不能額等	0	0.0%	0		〔予備費〕			0
	教育活動支出計	795,916	97.7%	93,395		基本金組入前当年度収支差額	△ 82,472		▼ 17,256
教育活動収支差額		△ 64,212		1,091	基本金組入額合計		△ 778		2,389
教育活動外収支	収入の部				当年度収支差額		△ 83,250		▼ 14,867
	受取利息・配当金	268	0.0%	197	前年度繰越収支差額		△ 2,880,357		▼ 68,383
	その他の教育活動外収入	0	0.0%	0	基本金取崩額		0		0
	教育活動外収入計	268	0.0%	197	翌年度繰越収支差額		△ 2,963,607		▼ 83,250
	支出の部				(参考)				
	借入金等利息	0	0.0%	0					
	その他の教育活動外支出	0	0.0%	0					
教育活動外支出計		0	0.0%	0	事業活動収入計		731,973		94,436
教育活動外収支差額		268		197	事業活動支出計		814,445		111,693
経常収支差額		△ 63,943		1,289					

財務比率推移表（事業活動収支関係）

比 率	R5	R6	R7	全国平均	比 率	R5	R6	R7	全国平均
人件費率	69.3	69.7	61.9	69.8	学生生徒等納付金率	72.4	72.0	68.3	73.4
人件費依存率	95.7	96.9	90.6	95.2	経常寄付金率	0.4	0.2	0.2	1.3
教育研究経費率	36.3	34.3	40.7	43.6	経常補助金率	18.6	19.6	23.2	16.0
管理経費率	6.7	6.3	6.2	12.1	減価償却率	10.0	9.8	8.1	12.6
借入金等利息率	0.0	0.0	0.0	0.2	経常収支差額率	△ 12.5	△ 10.2	△ 8.7	△ 25.8
事業活動収支差額比率	△ 12.6	△ 10.2	△ 11.3	△ 25.3	教育活動収支差額比率	△ 12.5	△ 10.2	△ 8.8	△ 27.6
基本金組入後収支比率	122.5	110.8	111.4	126.1	※全国平均は前年度の値				



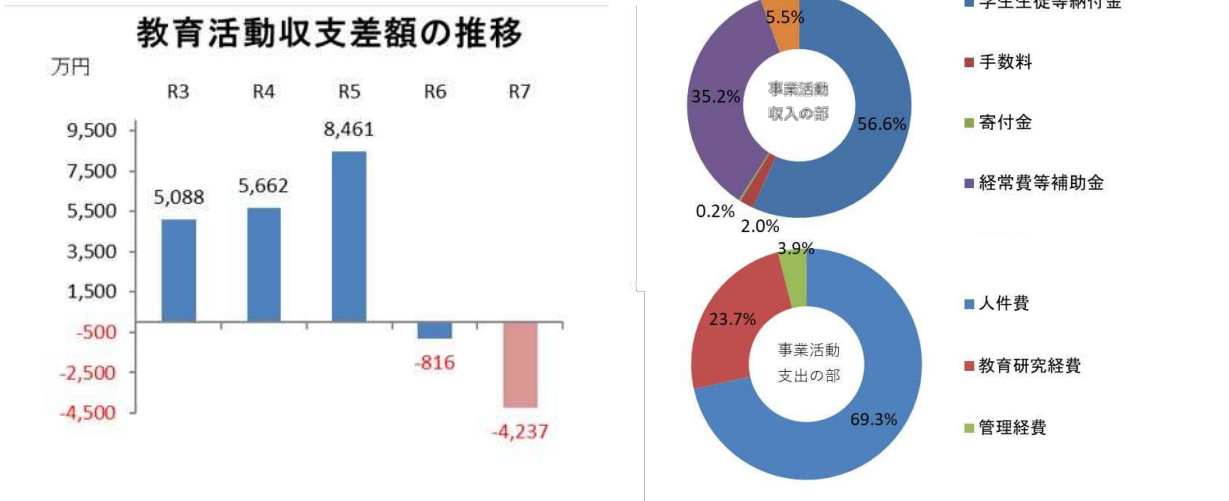
中・高等学校

事業活動収支計算書

(単位：千円)											
科 目		決算額	%	前年比	科 目		決算額	%	前年比		
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	1,161,860	56.6%	▼ 1,791	特別収支	収入の部活動	資産売却差額	0	0.0%	0
		手数料	41,236	2.0%	5,371			その他の特別収入	7,922	0.4%	7,922
		寄付金	5,060	0.2%	109			本部負担金収入	0	0.0%	0
		経常費等補助金	723,389	35.2%	▼ 2,839			特別収入計	7,922	0.4%	7,922
		付随事業収入	0	0.0%	0		資産処分差額	6,515	0.3%	1,358	
		雑収入	113,897	5.5%	▼ 84,096		その他の特別支出	60,337	2.8%	60,337	
		教育活動収入計	2,045,441	99.6%	▼ 83,245		本部負担金	0	0.0%	0	
		事業活動支出の部	人件費	1,493,722	69.3%		▼ 63,410	特別支出計	66,852	3.1%	61,695
		教育研究経費	510,612	23.7%	12,020		特別収支差額		△ 58,930		▼ 53,773
		管理経費	83,485	3.9%	2,356		〔予備費〕				0
	徴収不能額等	0	0.0%	0	基本金組入前当年度収支差額		△ 101,005		▼ 87,773		
		教育活動支出計	2,087,819	96.9%	▼ 49,034	基本金組入額合計		△ 48,570		▼ 35,212	
教育活動収支差額		△ 42,378		▼ 34,211	当年度収支差額		△ 149,575		▼ 122,984		
教育活動外収支	収入の部活動	受取利息・配当金	302	0.0%	211	前年度繰越収支差額		△ 269,281		▼ 26,591	
		その他の教育活動外収入	0	0.0%	0	基本金取崩額		0		0	
		教育活動外収入計	302	0.0%	211	翌年度繰越収支差額		△ 418,856		▼ 149,575	
	支出の部活動	借入金等利息	0	0.0%	0	(参考)					
		その他の教育活動外支出	0	0.0%	0						
		教育活動外支出計	0	0.0%	0						
	教育活動外収支差額		302		211	事業活動収入計	2,053,666		▼ 75,112		
経常収支差額		△ 42,075		▼ 34,000	事業活動支出計	2,154,671		12,661			

財務比率推移表（事業活動収支関係）

比 率	R5	R6	R7	全国平均	比 率	R5	R6	R7	全国平均
人件費率	70.4	73.1	73.0	62.8	学生生徒等納付金比率	56.7	54.7	56.8	49.6
人件費依存率	124.1	133.8	128.6	126.7	経常寄付金率	0.2	0.2	0.2	1.6
教育研究経費率	22.0	23.4	25.0	30.8	経常補助金率	34.9	34.1	35.4	40.4
管理経費率	3.6	3.8	4.1	6.3	減価償却額率	11.6	10.8	9.9	11
借入金等利息率	0.0	0.0	0.0	0.3	経常収支差額率	4.0	△ 0.4	△ 2.1	-0.2
事業活動収支差額比率	3.8	△ 0.6	△ 4.9	1.2	教育活動収支差額比率	4.0	△ 0.4	△ 2.1	△ 0.8
基本金組入後収支比率	96.5	101.3	107.5	108.1	全国平均は前年度の値				



令和7年度補助金・寄付金 一覧表

(単位：千円)

補 助 金 名	当 年 度 ①	前 年 度 ②	差 異 ①－②
短期大学補助金 合計	170,046	124,928	45,118
国庫補助金 計	169,371	124,844	44,526
私立大学等経常費補助金	87,471	85,476	1,995
授業料等減免費交付金	81,900	39,368	42,531
地方公共団体補助金 計	676	84	592
結核健康診断予防接種費補助金	76	84	△ 8
三重県子ども食堂等支援事業補助金	200	0	200
三重県子ども朝ごはん食堂等支援事業補助金	200	0	200
三重県学習支援・体験活動等支援事業補助金	200	0	200
中・高等学校補助金 合計	731,311	726,228	5,083
高等学校補助金 計	562,210	559,598	2,612
国庫補助金 計	4,753	0	4,753
私立大学等研究設備整備費等補助金（ＩＣＴ教育設備整備推進事業）	4,753	0	4,753
地方公共団体補助金 計	557,457	559,598	△ 2,141
私立高等学校等振興補助金	541,501	546,873	△ 5,372
授業料減免補助金	6,988	6,918	70
入学金補助金	1,058	1,035	23
人権教育推進事業費補助金	76	0	76
結核健康診断予防接種費補助金	181	195	△ 14
外国人語学指導助手補助金	450	450	0
教育改革推進事業補助金	300	300	0
私立高等学校振興補助金（津市）	2,445	2,538	△ 93
私立高等学校振興補助金（鈴鹿市）	277	307	△ 30
私立学校物価高騰対策支援補助金	4,182	982	3,200
中学校補助金 計	169,101	166,630	2,471
国庫補助金 計	3,169	0	3,169
私立大学等研究設備整備費等補助金（ＩＣＴ教育設備整備推進事業）	3,169	0	3,169
地方公共団体補助金 計	165,932	166,630	△ 698
私立高等学校等振興補助金	165,042	165,945	△ 903
私立高等学校振興補助金（鈴鹿市）	125	124	1
人権教育推進事業費補助金	55	0	55
私立中学エネルギー価格高騰対策支援金	710	0	710
総 計	901,358	851,156	50,201

(単位：千円)

寄 付 金 名	当 年 度 ①	前 年 度 ②	差 異 ①－②
短期大学 寄付金 合計	189	209	△ 20
津市ふるさと津かがやき寄付私立学校応援寄付金	189	209	△ 20
中高等学校 寄付金 合計	1,651	1,426	225
津市ふるさと津かがやき寄付私立学校応援寄付金	1,651	1,426	225
総 計	1,840	1,635	205

貸借対照表の概要

貸借対照表は、令和8年3月31日現在の財政状態を示しています。

令和7年度 貸借対照表（総括）

（単位：千円）

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	7,946,252	7,999,006	△ 52,754
有形 固定 資産	5,394,110	5,579,306	△ 185,196
土 地	1,025,123	1,025,123	0
建 物	3,511,217	3,701,141	△ 189,924
構 築 物	452,046	501,688	△ 49,642
教育研究用機器備品	120,553	85,024	35,529
管理用機器備品	12,105	9,420	2,686
図 書	219,307	224,708	△ 5,401
車 輜	23,839	2,284	21,556
学 苑 林	29,919	29,919	0
建 設 仮 勘 定	0	0	0
特定資産	2,519,289	2,371,549	147,740
退職給与引当特定資産	282,000	282,000	0
施設設備拡充引当特定資産	2,237,289	2,089,549	147,740
第2号基本金引当特定資産	0	0	0
その他の固定資産	32,852	48,150	△ 15,298
借 地 権	2,258	2,258	0
電 話 加 入 権	1,286	1,286	0
施 設 利 用 権	0	0	0
ソフトウェア	14,268	15,960	△ 1,692
有 価 証 券	3,298	13,298	△ 10,000
差し入れ保証金	350	350	0
長 期 前 払 金	11,393	14,999	△ 3,605
流動資産	450,247	476,152	△ 25,905
現金預金	346,120	300,889	45,231
未 収 入 金	45,626	113,003	△ 67,377
前 払 金	66	66	0
立 替 金	355	324	31
修学旅行費預り資産	52,035	55,896	△ 3,861
卒業諸費預り資産	6,044	5,973	71
資産の部合計	8,396,499	8,475,158	△ 78,659
固定負債	284,166	281,898	2,268
長期借入金	0	0	0
退職給与引当金	284,166	281,898	2,268
流動負債	537,612	406,346	131,266
短期借入金	0	0	0
未 払 金	84,075	63,745	20,330
前 受 金	291,450	252,620	38,830
預 り 金	25,385	28,112	△ 2,726
修学旅行費預り金	52,035	55,896	△ 3,861
卒業諸費預り金	6,044	5,973	71
賞 与 引 当 金	78,623	0	78,623
負債の部合計	821,778	688,243	133,534
基本金	13,172,922	13,122,610	50,312
第1号 基本金	13,000,922	12,950,610	50,312
第2号 基本金	0	0	0
第4号 基本金	172,000	172,000	0
繰越収支差額	△ 5,598,201	△ 5,335,695	△ 262,506
翌年度繰越収支差額	△ 5,598,201	△ 5,335,695	△ 262,506
純資産の部合計	7,574,721	7,786,914	△ 212,194
負債及び純資産の部合計	8,396,499	8,475,158	△ 78,659

注記 1. 引当金の計上基準その他の計算書類の作成に関する重要な会計方針

(1) 引当金の計上基準

- 徴収不能引当金・・・・・・・未収入金の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込額を計上している。
- 賞与引当金・・・・・・・教職員に対する賞与の支給に備えるため、当年度に負担すべき支給見込額を計上している。

○退職給与引当金

- (短期大学) 退職金の支給に備えるため、期末要支給額 183,235,147円 の100%を基にして私立大学退職金財団に対する掛金の累積額と交付金の累積額との繰入調整額を加減した金額を計上している。
- (中・高等学校) 退職金の支給に備えるため、期末要支給額 1,105,748,882円 から三重県私学振興会より交付金相当額を控除した金額の100%を計上している。

(2) その他重要な会計方針

- 有価証券の評価基準及び評価方法
移動平均法に基づく原価法である。

2. 重要な会計方針の変更等

- (1) 改正後の学校法人会計基準（昭和46年文科省令第18号）の適用
当年度から、学校法人会計基準の一部を改正する省令（令和6年文部科学省令第28号）に基づく改正後の学校法人会計基準を適用し、計算書類及びその附属明細書の様式を変更している。
- (2) 賞与引当金の計上
学校法人会計基準の改正により、引当金の計上基準が明確化されたことに伴い、当年度から計上している。これにより期首に計上すべき額として特別収支に 78,697,833円 を計上し、当年度に賞与として支給した額から特別収支の計上額を除いた額及び支給は翌年度であるが当年度の支給対象期間に相応する額として、人件費に 430,772,346円 を計上している。
この結果、従来の方法と比較して教育活動収支差額、経常収支差額が 75,253円 減少し、基本金組入前当年度収支差額が 78,622,580円 減少している。

- 3. 固定資産の減価償却額の累計額の合計額 **7,640,926,031円**
- 4. 金銭債権の徴収不能引当金の合計額 **0円**
- 5. 担保に供されている資産の種類及び額 **0円**
- 6. 翌会計年度以降の会計年度において基本金へ組入れを行うこととなる金額 **22,006,600円**
- 7. 当該会計年度の末日において第4号基本金に相当する資金を有していない場合のその旨と対策
第4号基本金に相当する資金を有しており、該当しない。
- 8. セグメント情報

科目 \ セグメント	短期大学	中・高等学校	学校法人部門	合計
教育活動収入計	731,704,320	2,045,441,327	5,653,128	2,782,798,775
教育活動支出計	795,915,870	2,087,818,923	51,118,453	2,934,853,246
教育活動収支差額	△64,211,550	△42,377,596	△45,465,325	△152,054,471
教育活動外収支差額	268,412	302,322	17,242,645	17,813,379
経常収支差額	△63,943,138	△42,075,274	△28,222,680	△134,241,092
特別収支差額	△18,529,136	△58,929,748	△493,650	△77,952,534
基本金組入前当年度収支差額	△82,472,274	△101,005,022	△28,716,330	△212,193,626
基本金組入額合計	△777,889	△48,569,800	△964,260	△50,311,949
当年度収支差額	△83,250,163	△149,574,822	△29,680,590	△262,505,575

- (注1) セグメント情報は拠点区分別（設置学校・附属施設別）の収支情報の内訳を示すものであり、必ずしも理事会が経営資源の配分の決定及び業績を評価すること等を目的とした財務情報にはなっていない。
- (注2) 各セグメントの主な区分方法は、拠点区分に応じて「短期大学」「中・高等学校」「学校法人部門」に区分している。
- (注3) 収入額及び支出額の各セグメントへの配分方法は、昭和55年11月4日付け文官企第250号文部省管理局長通知「資金収支内訳表等の部門別計上及び杯分について（通知）」に記載の方法を適用している。

9. 重要な偶発債務

該当無し

10. 子法人に関する事項

該当無し

11. 学校法人の出資による会社に係る事項

該当無し

12. 関連当事者との取引の内容に関する事項

該当無し

13. 学校法人間の財務取引

該当無し

14. 重要な後発事象

該当無し

15. その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

(1) 有価証券の時価情報

① 総括表

(単位 円)

	当年度 (令和8年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	3,297,674	64,427,228	61,129,554
(うち満期保有目的の債券)	(0)	(0)	(0)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	1,470,649,860	1,337,309,482	△133,340,378
(うち満期保有目的の債券)	(1,470,649,860)	(1,337,309,482)	(△133,340,378)
合 計	1,473,947,534	1,401,736,710	△72,210,824
(うち満期保有目的の債券)	(1,470,649,860)	(1,337,309,482)	(△133,340,378)
時価のない有価証券	-		
有価証券合計	1,473,947,534		

② 明細表

(単位 円)

種 類	当年度 (令和8年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
債 券	1,300,649,860	1,185,560,100	△115,089,760
株 式	3,297,674	64,427,228	61,129,554
投資信託	170,000,000	151,749,382	△18,250,618
貸付信託	-	-	-
その他	-	-	-
合 計	1,473,947,534	1,401,736,710	△72,210,824
時価のない有価証券	-		
有価証券合計	1,473,947,534		

財務比率推移表

(単位：％)

比 率	R5	R6	R7	全国平均	評	算式 (×100)	説 明
固 定 資 産 率	94.1	94.4	94.6	85.5	▼	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{総 資 産}}$	資産構成の全体的なバランスはどうか
有 形 固 定 資 産 率	68.1	65.8	64.2	58.8	▼	$\frac{\text{有 形 固 定 資 産}}{\text{総 資 産}}$	土地・建物等の有形固定資産の構成比が資産構成上バランスがとれているか
特 定 資 産 率	25.4	28.0	30.0	20.2	△	$\frac{\text{特 定 資 産}}{\text{総 資 産}}$	長期に亘って特定の目的のために保有する金融資産の蓄積状況はどうか
流 動 資 産 率	5.9	5.6	5.4	14.5	△	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{総 資 産}}$	資産構成の全体的なバランスはどうか
固 定 負 債 率	3.1	3.3	3.4	6.3	▼	$\frac{\text{固 定 負 債}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	長期的な負債構成のバランスと比重はどうか
流 動 負 債 率	4.9	4.8	6.4	4.7	▼	$\frac{\text{流 動 負 債}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	短期的な負債構成のバランスと比重はどうか
内 部 留 保 率	21.9	23.6	24.4	27.1	△	$\frac{\text{運用資産} - \text{総負債}}{\text{総 資 産}}$	特定資産と有価証券と現金預金を合計した「運用資産」から総負債を引いた金額の総資産に占める割合はどうか
運 用 裕 資 産 率	87.0	91.1	94.9	1.7	△	$\frac{\text{運用資産} - \text{外部負債}}{\text{経 常 支 出}}$	一年間の経常的な支出規模に対してどの程度の運用資産が蓄積されているか
純 資 産 率	92.0	91.9	90.2	89.0	△	$\frac{\text{純 資 産}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	純資産の、総負債および純資産の合計額に占める構成割合はどうか
繰 越 収 支 差 額 率	△ 60.8	△ 63.0	△ 66.7	△ 28.0	△	$\frac{\text{繰 越 収 支 差 額}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	繰越収支差額の、総負債および純資産の合計額に占める構成割合はどうか
固 定 比 率	102.4	102.7	104.9	96.1	▼	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{純 資 産}}$	土地・建物等の固定資産に対してどの程度純資産が投下されているか
固 定 長 期 適 合 率	99.0	99.1	101.1	89.7	▼	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{純 資 産} + \text{固 定 負 債}}$	自己資金のほか長期借入金で固定資産を取得する原則にどの程度適合しているか
流 動 比 率	119.1	117.2	83.7	309.9	△	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}}$	1年以内に償還する流動負債に対して1年以内に現金化が可能な流動資産はどの程度用意されているか
総 負 債 比 率	8.0	8.1	9.8	11.0	▼	$\frac{\text{総 負 債}}{\text{総 資 産}}$	純資産に対する他人資金の比重はどうか
負 債 比 率	8.7	8.8	10.8	12.4	▼	$\frac{\text{総 負 債}}{\text{純 資 産}}$	他人資金である総負債が自己資金である純資産を上回っていないか
前 受 有 金 率	139.9	119.1	118.8	558.5	△	$\frac{\text{現 金 預 金}}{\text{前 受 金}}$	翌年度分の入学金等が現金預金の形で適切に保有されているか
退職給与引当特定資産保有率	100.5	100.0	99.2	56.2	△	$\frac{\text{退職給与引当特定資産}}{\text{退職給与引当金}}$	退職給与引当金に見合う資産を特定資産としてどの程度保有しているか
基 本 金 比 率	101.3	101.4	101.8	97.2	△	$\frac{\text{基 本 金}}{\text{基 本 金 要 組 入 額}}$	基本金組入対象資産額である要組入額に対する組入済基本金の割合はどうか
減 価 償 却 比 率	56.0	56.0	56.0	60.1	～	$\frac{\text{減価償却累計額(図書除く)}}{\text{減価償却資産取得価額(〃)}}$	減価償却累計額が取得価格に対してどの程度占めているか
積 立 率	34.8	36.4	38.8	61.9	△	$\frac{\text{運 用 資 産}}{\text{要 積 立 額}}$	持続的かつ安定的な経営を継続するために必要な運用資産の保有状況はどうか

評価指標 △：高い値が良い ▼：低い値が良い ～：どちらともいえない

全国平均は前年度の値

財産目録

(単位：千円)

一、内 資 産 1. 基 礎 財 産
2. 運 用 財 産
三、負 債 正 本 用 財 産 総 額 財 産 総 額 財 産 総 額

8,396,499
5,378,459
3,018,040
821,778
7,574,721

項 目	年度末
一 資 産	
(一) 基 本 財 産	
1 土 地	102,865.92 m ²
(1) 短期大学校地	18,990.77 m ²
(2) 中学・高校校地	83,875.15 m ²
2 建 物	41,560.74 m ²
(1) 校 舎 1号館 (短 大)	3,155.60 m ²
(2) " 2号館 (")	4,163.75 m ²
(3) " 3号館 (")	1,743.64 m ²
(4) " 音楽棟 (")	858.82 m ²
(5) " 図書館 (")	803.19 m ²
(6) " 本 館 (中・高)	4,721.83 m ²
(7) " 1号館 (")	2,722.10 m ²
(8) " 2号館 (")	2,155.05 m ²
(9) " 3号館 (")	2,609.31 m ²
(10) " 4号館 (")	3,125.59 m ²
(11) " 5号館 (")	4,113.15 m ²
(12) 体育館 (第一) (")	3,819.78 m ²
(13) " (第二) (")	1,889.03 m ²
(14) " (第三) (")	2,086.29 m ²
(15) " (短 大)	1,983.96 m ²
(16) クラブハウス 1 (中 高)	422.10 m ²
(17) クラブハウス 2 (中 高)	162.00 m ²
(18) 管理棟 1 (")	207.23 m ²
(19) 管理棟 2 (")	98.88 m ²
(20) 厩舎棟 (")	396.00 m ²
(21) 施設管理棟 (")	122.40 m ²
(22) 西グラウンド倉庫 (")	43.20 m ²
(23) その他の建物 (中・高・短大)	157.84 m ²
3 構 築 物	229 点
4 教育研究用機器備品	19,355 点
5 管理用機器備品	253 点
6 図 書	104,450 冊
7 車 輦	10 台
8 ソフトウェア	10 本
(二) 運 用 財 産	
1 現金及び預金	346,120
(1) 現 金	178
(2) 預 金	345,942
2 修学旅行費預り資産	52,035
3 卒業諸費預り資産	6,044
4 積立金	2,519,289
(1) 退職給与引当特定資産	282,000
①普通預金	32,000
②定期預金	150,000
③有価証券	100,000
(2) 施設設備拡充特定資産	2,237,289
①普通預金	216,639
②定期預金	650,000
③有価証券	1,370,650
5 未 収 金	45,626
6 借 入 地 権	1 点
7 電 話 加 入 権	15 基
8 施設利用保証金	3 点
9 差し入れ保証金	350
10 有価証券	42,917.00 株
11 学 苑 株 金	61,913.00 m ²
12 長期前払	29,919
13 前払金	11,393
14 立替金	66
合 計	355
	8,396,499
二 負 債	
(一) 固 定 負 債	
1 退職給与引当金	284,166
(二) 流 動 負 債	
1 未 払 金	84,075
2 前 受 金	291,450
3 預 り 金	83,465
(1) 職員源泉等預り金	25,385
(2) 修学旅行費預り金	52,035
(3) 卒業諸費預り金	6,044
4 賞 与 引 当 金	78,623
合 計	821,778

事業報告書の附属明細書

※特記事項なし